経済科学論集（Journal of Economics）第26号，2000年３月，41－78ページ

中国寧夏回族自治区における農業生産の発展

中　林　吉　幸

はじめに

中国黄土高原に位置する寧夏回族自治区についてはすでに90年に３個所の集落において調査が行われており、今回の調査は同年に行われた調査対象地域と同じ集落を調査対象としている(注1)。本稿ではこの90年と98年の２回の調査結果に基づいて、主として以下の４つの項目について検討を行う。まず(1)この地域においては農業生産がいかなる性格を有しているのか。次に(2)90年と98年の調査で調査対象となった３個所の集落の所得がどのように変化しているか。(3)この所得の変化は主として何に基づいているのか。そして(4)所得の変化は具体的にどのような現象にみることが出来るか、である。

調査の対象は中国の中央部からやや東よりに位置する寧夏回族自治区の南部山地の３つの集落である。寧夏回族自治区はいわゆるシルクロード観光の東の端に位置する。ここは少数民族の自治区である。宗教的には回教徒が多い地域である。同自治区においては、北部の黄河沿いの地域では潅漑設備を利用して、古くから農業生産力が高かったことが書物によって確認される(注2)。これに対してその他の南部山地と呼ばれる南部の高原地域においては、年間雨量が極端に少なく、今日でも一部の地域では砂漠化が進行している。そこでこの南部山地においては、農業用水をいかにして確保するかが大きな課題となっている。

この地域において「水」の確保が非常に重要であるのは、現在のところ農林業以外の産業がほとんど育っていないこととも関連している。すなわちこの自治区においては、全就業人口のうちで農林業に従事する割合が95％以上にも達する(注3)。同時に、耕地面積がほとんど一定なのに対して、この地域の人口はつい最近まで増加し続けてきた。従って農民１人あたりの耕作面

積がどんどん縮小してきたのである。われわれの調査によっても、少数民族に関しては「1人っ子政策」の規定が緩和され、2人までは許されるとはいうものの、それを考慮に入れても農家の家族数は一般にかなり多い。子どもの数が4、5人である農家はまれではなかった。この子供たちは、男女を問わず一定年齢に達すると、婚姻その他を契機として次々と分家してゆく。

同時に、49年の社会主義革命以来、この地においても食料の大増産政策が実施され、とくに60年代の人民公社、文化大革命の時期には、あますところなく山頂まで開墾されることになった。その結果、激しい土壌流出が起こった。われわれが97、98年の2回にわたって行った現地調査時にも、すさまじいエロージョンがいたるところに見られた。

70年代末以来の「改革・開放」路線はこの自然破壊を深刻に受け止め、大規模な植林を奨励することになった。我々の調査からは、植林事業はまだまだ不十分のように見えた。

現在の中国政府の経済政策は、まず経済発展において先端を行く地域が豊かになり、それら先進地域が後進地域の経済水準を引き上げるというものである。工業化、近代化が進展している沿岸地域から離れた、経済的にも遅れた貧困地域であるこの地域の農業については中国人研究者によってかなり詳しい調査報告がなされている(注4)。また日本人による黄土高原の緑化に関する報告もなされている(注5)。ただし、今回の調査のような時系列的な調査はなされていない。

(注1) この調査は平成9年度～10年度文部省科学研究費補助金・国際学術研究（課題番号09041070）に基づく調査の成果の一部である。参加者は研究代表者・北川泉、井口隆、渡部晴基、伊藤勝久、保母武彦、富野喜一郎、廣嶋清志、相良英輔、山本真一、中林吉幸の10名である。なお、本稿の執筆責任はすべて中林にある。

(注2) 引用文献・胡薄（1）。

(注3) 同上。

(注4) ところで90年の調査は日本の研究者が中国人の研究グループに調査を依頼したものである。南部山地の3つの集落を対象に、合計で90戸程度を調査している。98年の調査においては30戸前後を日本人と中国人の研究者が共同で調査した。その他に、90年に調査した農家を含む約100戸の調査を中国人の研究者に依頼した。合計約130戸である。98年の調査は中国人民大学助教授の胡薄女子がアレンジし、同女子は現地調査で通訳の役割をも果たしてくれた。

同女子は長年この自治区をフィールドワークの対象としてきた。同女子の協力が調査の遂行を可能ならしめた。記して感謝する。

（注５）引用文献・長谷川（２）。

1　寧夏回族自治区の自然・農林業の特徴(注６)

(1)　寧夏回族自治区の自然・歴史

寧夏回族自治区は57年までは省であったが、58年から自治区となった。面積は6.6万㎢、人口は487万人である。最高峰は伽藍山で3556mである。平均気温は１月がマイナス７度からマイナス10度、７月が17度から24度である。平均年降水量は190mmから700mm、冬季が長い。

ここで寧夏回族自治区の歴史を自然との関連で簡単に振り返っておこう。黄土高原はかつては豊かな緑で覆われていた。そこに、中国の歴大王朝が主として漢民族を移住させた。それは辺境の守りが主要な目的であった。寧夏についても事情は同じで、屯田兵として通常は農業に従事し、一旦事があれば兵士になった。この移住によって、樹木が切り払われ、開墾が行われ、黄土高原からは徐々に緑が失われていった。

49年の中国革命後、寧夏回族自治区においても農地改革が実施されるが、灌漑施設の整った寧夏北部とそれがほとんど無い南部山地との南北経済格差が拡大した。南部山地の住民は不足する食料を「補助」を受けることによって補ってきた。また「寧夏地区では、79年まで自由市場が閉鎖され、農民の「自留地」と「家庭副業」が禁止され、また、分配の絶対平均化が進められたため、農民の生産意欲は大きく抑制され」ることになった(注７)。

79年の改革開放後、市場経済が導入され、従来の生産の集団化、人民公社制度から、「生産責任請負制」が導入されることとなった。同時に、農林業政策は単一の食料増産政策から、農・林・牧畜業の総合振興政策へと転換する。すなわち79年以後、環境保護を意識した農林業政策へと転換する。

(2) 灌漑

灌漑用水は何千年も前から、特に現在の寧夏回族自治区の北部、すなわち黄河流域で利用されてきた。これに対して同自治区の南部山地では降雨量が少なく、6月から9月にかけての天水に依存した農業、特に牧畜業が営まれてきた。そこで、歴史的には北部は農耕文化、南部においては遊牧文化が形成されてきた。南部山地において近年では、黄河の水、あるいは地下水を利用した灌漑が一定程度普及している。

(3) 南部山地での農業生産上の問題

この地域での主な農作物はトウモロコシ、アワ、キビ、大豆等である。これらの生育期間である3月から6月にかけては最も降雨量が少なく、無肥料栽培であるので収量は著しく少ない。しかし耕作が可能なことから、農民はその低い生産性を補うために、丘陵の急傾斜地まで段々畑を作っている。この畑が7、8月の降雨期に浸食され表土流出の原因となっている。

一方、この地方では急傾斜地で羊、馬、牛の放牧が行われている。これが過放牧状態にある。特に多く飼われている羊については、舎飼はほとんど行われていない。草地には肥料も足りず、植物が十分育つ前に羊に食べさせる。その結果、飼料の収穫量が不十分な上に、耕地の利用率も低下する。これが、急傾斜地の土壌流出を一層促進している。すなわち人間の生産活動そのものが砂漠化をもたらす原因になっている(注8)。

自治区政府は南部産地の農業生産力を向上させる1つの有力な手段として、灌漑施設の無い地域の集落を、黄河に比較的近い地域に移転させる方法を実施している。同時にその移転先に灌漑用水路を造り、黄河から水を引くものである。

(注6)「1寧夏回族自治区の自然・農林業の特徴」の記述は、引用文献・胡薄(1)、同・長谷川(2)によっている。
(注7)同上。

（注８）引用文献・長谷川（２）。

2　調査結果

98年の調査は９月２日に現地入りし、同日から10日にかけて行われた。以下にその結果を述べる。

(1)　調査対象３集落の概要

(i)　同心県城美郷小山村集落（以下では「小山村集落」と表現）

小山村集落は自治区の首都の銀川市から南に217km離れた同心県同心市の近郊にある。調査対象の３つの地域の中では相対的に黄河に一番近い。この集落は人口の100％が回教徒を信ずる回族である。この集落には全部で134世帯があり、人口は720人である。非農家はない。全部農家である。10年前の88年には90世帯、人口は640人であった。10年前と比較して世帯数で49％、人口で12.5％増加したことになる。このなかで今回我々の調査対象となった世帯数は40戸である。ただし２回の調査で比較可能な農家数は30戸であり、ここではこの30戸を分析の対象とする。この集落は計画出産のモデル地区である。

以下はこの集落の集落長の話である。この集落では84年に灌漑施設が造られた。それまでは灌漑は全く不可能であった。黄河から水を引いている。昔と比べて集落はかなりかわった。それは「われわれの誠実さと勤勉さの賜物」である。たとえばこの８年間に毎年１人あたり所得が増加して、98年には１人1700元になった。生活の内容がほんとに急に変化してきたのは94年以降である。

灌漑面積は変化していない。全部で1700ムー、113.3ha（１ha＝15ムー）が灌漑可能な面積である。１人あたり2.5ムーになる。この他に1440ムー、96haの非灌漑地がある。１人あたり２ムーになる。灌漑可能な土地で作っているのは１ムーは小麦、1.5ムーは羊の飼料用のトウモロコシである。

84年に灌漑施設が出来るまでは1人あたり農地面積は20ムーであった。そ

れが施設が出来てからは１人あたり4.5ムーに減った。すなわち、県の方針で数万人をこのあたりに移住させた（先に述べたように、これはこの南部山地に特有の移住政策である）。集落の飲料水は灌漑用の水を貯水槽に溜めて利用する。

この集落では主な収入源は果樹園の果樹からのものである。２番目が出稼ぎである。食料生産からの現金収入はあまり無い。同心県内ではこの集落の所得水準は平均以上である。すなわち１人あたり1700元の所得のうち、600から700元は果樹園からの所得である。人民公社時代、すなわち70年から84年までにも果樹園はあった。その当時は１人あたり収入は100から200元であった。84年以降、とくに90年以降収入の30～40％は果樹園からの収入である。

この集落ではこの「果樹園経済」が有名である。敷地内での果樹の栽培である。これはこの自治区では80年代の半ばころから始まった。農家１世帯あたりの住居の敷地面積は2.7ムーである。そこでほとんど自分の家の敷地のなかで果樹を栽培している。建物の建築面積は0.7ムーである。従って果樹面積は２ムーになる。この中には畜舎も入る。

畜産について。この集落では牛を飼っている農家は少ない。羊は多くの農家が飼っていて、１戸あたり10から30頭になる。これも収入源の１つである。羊はほとんどが舎飼いである。

羊の飼養について、１年に１頭にかかる費用は約50元である。飼養頭数の多い家では30頭飼っている。平均は世帯当たり10頭である。羊を飼養することからの収入よりも、建設業の賃金の方が多い。成長した羊は200元で売れる。小羊は100元である。これに対して建設業の賃金は月450元になる。

それにもかかわらず羊を飼うのは、「果樹園経済」に使うためである。（糞尿を利用するのであろう－引用者。）また、回族（自治区の主要な民族）は羊が好きなのである。羊の飼料は全部自給である。庭の草、畑の草、自給のトウモロコシ、小麦の脱穀のフスマなどである。果樹の栽培には１ムーあたり有機肥料が2500kg必要になる。羊１頭の年間の堆肥は1000kgになる。この糞尿と土、水を合わせて2000kgになる。

農業以外の副業について。134世帯のなかに以下のような副業を行う農家がある。すなわちモヤシ加工２世帯、豆腐加工２世帯、ウサギ飼養専業農家１世帯（今年から始めた、100数十匹飼っている、農業もやっている）、小売業10世帯、小百貨1世帯、農機修理（内容は不明）２世帯、小麦加工３世帯、運送業５世帯。（トラック５台だが、そのうち２台は以前と違って６ないし８トンの大型トラックである－１台20万元する。）同心市まで通勤兼業している世帯がある。全部で10数人である。通勤手段はバイクである。

出稼ぎについて。これには２種類ある。１つは固原地区ならびに同心県での建築業である。これは男性のみで20ないし30名が行っている。大体は農閑期に出かけるが、副業収入が多ければ農繁期にも出かける。行くときにはトラックに乗って、調理用品も持っていく。もう１つは内モンゴル、甘粛省に髪菜（ファーサイー祝いの時に食する植物）を採りに行く。これは女性の方が多い。かつては現在よりもっと大勢が取りに行った。９月から11月にかけて行くが、貧しい家では４、５月も出かける。以上合計で50ないし60人が出稼ぎに行く。行くのは若い人が多い。誰が行くかは決まっていない。建設業は１人１日15元で月450元になる。髪菜は採ったものを市場に持ってゆく。まったく１元も売れないこともあり1000元売る人もいる。

教育について。小学校への入学率は100％である。中卒は100％である。高校進学率は50％、そのうち大学へは50％が進学する。90年から現在までに大学、高等専門学校に通う、あるいは卒業した青年は40名あまりになる。すなわち、この集落においてはかつてのように子どもを農作業に従事させることなく、勉強に専念させることが出来るほどに経済的に余裕が出来てきた。最近勉強の必要性が高まってきた。

次に所有している耐久消費財について。134世帯のなかで小型トラックを所有する世帯が40世帯。カラーテレビは100％普及している。バイクは20％。乗用車（ダイハツシャレード）１世帯で保有（現地調査では30世帯のうち２世帯であった）。ジープ１世帯。電話25世帯。（現地調査では30世帯中、10世帯であった。）洗濯機は平均で100％。（１世帯に２台あるところもあり、無

いところもある。)

住居について。84年まではほとんどが土の家であった。今は1軒を除いて全部レンガ造りになった。上部は木造である。

脱貧について。年の所得が800元以下の農家は極貧世帯である。この集落では89年に基本的に全部脱貧した。すなわち極貧世帯はなくなった。現在では2世帯が800元ほどの所得である。これは極貧世帯にあたる。すなわちこれら世帯は自治区政府(国)から救済金(補助金)が来れば受給の対象となる。

このうちの1世帯は3年前に主人が病気で死亡し、かつ労働力が障害者である世帯である。主人が亡くなっても4人分の土地を耕作している。子ども2人は学校に行っている。この世帯は不定期に郷政府に100元から150元を要求する。年間ではこの補助金は800元を超えている。

もう1世帯は83歳の老婆1人暮しの世帯である。この老婆に対しては集落内で月100元集めてその中から援助する。政府に200元申請して100元くる。集落で集めた1200元と政府からの100元、合計1300元で生活している。月100元に入院代、薬代が加算される。

集落の予算について。集落委員会は予算(税金か?ー引用者)を土地1ムーあたり1元と決め、執行する。農民の総収入の5%を越えないように設定する。税収は農家の純収入の5%である。

84年に集落を改造し、道路を整備した。(調査に行った時、道路ならびに住居が整然と区画整理されており、それが計画的になされたであろうことは1目でわかった。これは他の2つの調査地域では見られないものであった。)土地はその時自留地ならびに生産請負地として配分された。

(ii) 海原県高台郷白河集落(以下では白河集落と表示)

以下はこの集落の集落長(部落長)の話である。この集落は同心市から南西の方角にある海原市の近郊にある。首都銀川市から海原市までの距離は232kmである。

この集落も小山村と同様に100%回族の集落である。この集落の世帯数は

81年に32世帯、242人であったのが、分家の結果88年には36世帯に増えた。98年現在は54世帯で、人口は308人である。このうち本稿では89年との比較が可能な32世帯を分析の対象とする。この集落のすべての世帯が農家である。耕地面積は1452ムー（96.8ha）、そのうち灌漑面積は300ムー（20ha）、総耕地面積の20.7％になる。集落民には１人あたり６ムーが与えられる。

去年の１人あたり収入は960元であった。内訳は自給食料分が560元、販売した農畜産物が200元である。副業による収入は平均200元である。小麦に換算すると1人あたり350kg（560元：小麦1kg＝1.6元）を自家消費している。

84年に井戸水灌漑施設２つが作られた。これには20万元がかかった。井戸水の汲み上げにはポンプを使う。これらの井戸は国（自治区政府）が投資して作った。水の分配もポンプを動かすための費用も平等になされる。集落民は電気代を払っている。年間１ムーあたり84元を払って、年4回利用できる。生活用水は一部はポンプの井戸の水を直接利用し、一部はポンプの井戸水を貯めた貯水槽を利用している。

この集落の16歳以上55歳までの労働力は150人である。81年に土地が分配され、「生産請負制」になった。この時年齢と関係なくすべての人口に土地が配分された。

農地の中に牧草地はない。耕地のみである。主な食料（生産物－引用者）は小麦、キビ、馬鈴薯、アワ、インゲン豆（扁豆）、灌漑地に時々赤ゴマを作る。トウモロコシは栽培しない。

農作物の種（豌豆、インゲンマメ、赤ゴマ）は毎年現金で買っている。小麦、じゃがいもについては毎年種子を変えている。灌漑地の赤ゴマが病気にかかっているので、これに対する農薬を農民は自分で買っている。灌漑地の小麦にもこの病気がはやっている。

換金出来る作物は豌豆豆、インゲンマメ、赤ゴマである。小麦は売らない。自家消費用である。

小麦の生産量は灌漑地では１ムーあたり275kg、非灌漑地では65kg。つまり、非灌漑地では灌漑地の収穫量を100とすると23.6％の収量しか上げられ

ないということになる。

３戸の農家が羊を飼っている。各戸10頭ほどで、合計31、32頭くらいである。大部分は舎飼いである。牧草が少ないので羊は少ない。驢馬は5頭、牛は53頭（そのうち10頭は子牛）、騾馬が一頭いる。耕作には牛を使うが、牛を持っていない農家では他人のを借りて耕作する。

農業用機械・機具について。脱穀用３輪トラック６台、14台のトラクター、３台の（運送業用）大型トラックがある。

冬は基本的に忙しくない。冬場の仕事としては畑に肥料をやる。家畜を世話する。畑の耕起をする。

昨年の納税額。小麦１kg１元で17元払えばいい。脱穀したもの、質の良いものを出す。現金でも現物でもいいが、現金で払う人はいない。この集落では土地を保有している242人が支払った。

副業について。大型トラックを持っている人だけ運送業を副業として行える。10年前には１農家が国（自治区政府）のトラックを借りて運送業を始めた。今は３台とも個人有である。また、トラクターで近場で脱穀を請け負い、労働を交換する。つまり、労働を提供してもらってそれに対して脱穀をしてあげる。内モンゴルにいって髪菜（ファーサイ）を採取する人もいる。出稼ぎに行く人は少ないが、いる。

貧困家庭について。貧困家庭の認定は行政（この集落）が調査をして認定する。貧困家庭には１人あたり月10kgの食料が援助される。昨年（97年）この集落では18ないし19世帯が貧困世帯であった。そのうちの15世帯は95年の干ばつで貧困世帯になったものである。これらの世帯には扶貧基金（貧困世帯への政府の援助）からの援助として利率0.24％の貸付金が与えられた。これら貧困世帯のうち、４世帯は極貧世帯である。それらは老人だけの世帯、身体障害者・精神障害者の世帯である。

学歴について。77年から98年までで専門学校以上の学歴があるのは男性８名、女性４名である。６、７歳あるいは15歳で学校に入るべき子供54人のうち47人が学校に通っている。47人のうち５人が中学生である。７人が学校に

行かない理由は、学校が遠いこと、学費が高いことである。高校中退者が1人いる。これはお金が無いから行くのを止めたものである。この集落には医者は1人もいない。病気の時には別の集落か郷に行く。

耐久消費財の普及について。電気は83年に通った。テレビの台数は19台である。洗濯機は2台ある。これは嫁の要求によるものだそうだ。バイクは7台ある。冷蔵庫はない。電話も無い。自転車は50台ある。

お嫁さんの出身は県内が多い。甘粛省、青海省の出身者がいくらかいる。郷内も少ない。この集落の出産計画は87年から始まった。国（自治区政府）は81年から始めている。日常生活用雑貨を販売する店が2個所ある。これは自由市場とは違って農家の敷地内に設けられた小屋で、主に日用雑貨ならびに食料品を販売する。

(iii)　固原県七営郷七営鎮上堡集落（以下では「上堡集落」と記述）

この集落は銀川市から南南西におよそ230～240km離れている。ここは人口の100％が漢民族の集落である。54歳の部落長宅で以下の話を聞いた。

この集落には40世帯があり、人口は210人である。この40世帯のうち、ここでは8年前と比較可能な30世帯を取り上げる。16歳から55歳までの労働力は134人である。このうち女性は23人多い。世帯全部が農家である。86年当時には戸数が29戸、人口が136人であった。それが分家・結婚によって世帯数が増えた。10年前まだ貧しかった青年たちが今は結婚できるようになった。

耕地面積は840ムー、56haである。その内訳は灌漑面積が130ムー、非灌漑面積が710ムーである。灌漑率は15.5％になる。（後に述べる調査結果では灌漑率は45％ほどであり、部落長の話とは大分違う。理由不明。）農地面積は10年前（90年の前回調査－引用者）と変わっていない。灌漑設備は87年に出来た。86年までは灌漑地はゼロだった。水は黄河から引いている。農家にはそれぞれ地下を利用した飲料用の貯水釜がある。これらはあまり農業用には使用されない。家の周りで野菜を作るのにこの釜の水を利用する。

農地の3分の1では食料を栽培する。残り3分の2には工芸作物、すなわちサトウキビ、ヒマワリ、スイカを作る。

灌漑用水は保有する土地面積によって水を配分する。年3回灌漑する。1回の水量は150㎥、費用は1㎥あたり6.2銭（＝0.62角：10角＝1元）。灌漑地での生産量はトウモロコシについては1ムーあたり400kg、小麦については本来（94年以前）は1ムーあたり300kgであるが、95年から連作障害（病虫害）のため、ヒマワリ、キビ、アワの栽培に変えた。95年に小麦は1ムーあたり100kgしか取れなかった。

非灌漑地は傾斜地で、ここではほとんど小麦を作る。雨量が適量あれば1ムーあたり小麦なら50kg、トウモロコシなら100kg取れる。トウモロコシの製粉所が集落にある。

食料の種子のうち90％は農業ステーションから毎年優良種子を買って使う。優良種子を自分では作っていない。

家畜の世帯当たり飼養頭数は、豚は多くて2頭、牛は1頭、羊は1頭未満である。

林業について。家の周りに植林し、自分の家の建築用材に使う。用水路の両側に植樹している。また屋敷の敷地内に果樹園を作っているが、りんご、梨がほとんどである。集落所有林への義務造林もある。植樹の樹種は大部分はポプラである。義務造林には楡（にれ）も使われる。

農業技術の普及について。七営郷の農機ステーション、農業化学肥料ステーションから人が来て教える。ハンドトラック（トラクター）は集落全体で7台しかない。全耕地面積のうち40％は農業機械が使える。残りの60％は傾斜地で、人力か畜力で耕作する。機械は個人の所有である。1ムーあたり6元で使いたい人が借りる。

昨年の集落の1人あたり所得は800元であった。内訳は35％が食料の収入（自給と販売）、65％は副業ならびに工芸作物からのものである。副業は出稼ぎのみである。集落内の6ないし7世帯の1人あたり収入は1000元以上になる。

出稼ぎについて。25、26歳の男子10名くらいが春から秋にかけて出稼ぎに行く。行く先はほとんど固原（県の中心地－この集落からは20、30kmの距

離)、遠いところは銀川市。大体が建設業に従事する。

耐久消費財の普及について。40世帯のうちテレビは38世帯にある。洗濯機を持っている家が10数世帯ある。冷蔵庫を持っている家はない。電話は2世帯にある。風呂（場）を持っている農家は多分ないだろう。

この集落の人口210人のなかで大学卒業者は1人もいない。高卒は40～50人位いる。現在学校に通っているのは20人弱である。現在通学している中学、高校生は13名、中学校のみを卒業した集落民は10数人いる。労働力134人はほとんど小学校卒業レベルである。小学校への入学率（7歳から）は95%、卒業率は90%位である。労働力の足りない農家で卒業しないケースが多い。しかも女子に多い。小学校に通学するのに半年で70元かかる。学歴が上の方が豊かな家が多い。

この集落ではこの部落長の家が1世帯7人で一番家族数が多い。次に6人家族の世帯が2世帯ある。国（自治区）の政策ではこの地方では計画出産によって子供が2人までに制限されてきた。しかし以前（79年まで）には60%の世帯ではそれ以上の子供を持っていた。今では100%計画出産に従っている。すなわち子供を育てるのに経済力がいることがわかったので国の出産計画に従っている。普通は子供が2人いる世帯が多い。まったくの1人っ子はいない。特に郷内同士の結婚が多い。

住宅について。10年前には10軒位丸い土の家（ヤオトン）があった。今はない。今は家の材料に煉瓦（焼き煉瓦）を使っている。

医療について。風邪、熱、水疱瘡については集落に医院があるので十分である。集落には防疫委員がいる。それ以外は固原にある病院に行く。このあたりは伝染病はない。健康状態は10年前よりレベルアップしている。昔は病気になっても我慢したが、今は生活レベルがアップし、防疫所に行く。78年以降費用は全部個人で自己負担する。それ以前は予防、出産計画以外は自己負担であった。今の自己負担は以前より多くなったようだ。医療保証は無い。現在（政府が）医療保証に参加しましょうと宣伝している。

年金制度はない。年を取ったら子供に面倒を見てもらう。（3つの地域で

の実地調査では90％以上が末子相続予定であったが、これは子供に面倒を見てもらうためであるのかもしれない－引用者。）

86年ころにはこの集落では食料の50％は国家からの援助であった。残りの50％を自分たちで生産していた。現在は40戸のうち３戸が食料不足であり、その他の世帯は自給出来ている。この貧困世帯３世帯への補助は、不足する生活費の20～30％を郷政府の判断で補助する。金と食料の両方で援助する。この３世帯は今年やっと脱貧した。集落全体も脱貧した。今や扶貧基金（貧困世帯への援助）は必要なくなった。

個人所有の小さな売店が８年前には１つだけだったのが、今は６つになった。

以下では、実際の調査結果を述べる。

(2) 農家調査結果

(i) 同居家族数ならびに後継者

紙幅の関係で資料の表示は略すが、90年の調査では、同心県小山村の平均家族数が7.1人と一番多く、海原県白河集落が6.3人で２番目、固原県上堡集落が6.0人と一番家族数が少なかった。後継者については３つの集落とも90％以上が末子相続で、かつ全員男子であった。98年には家族数が１番多いのは固原県上堡集落の5.6人、２番目が海原県白河集落の5.5人、最も少ないのが同心県小山村の5.3人である。８年間に海原県白河集落と固原県上堡集落の順位が入れ替わっていた。後継者については98年の調査においても、３集落とも末子相続が90％を越え、後継予定者全員が男子である。上保集落の調査では固原県地方においては末子相続が一般的であるとのことであったが、同地方に限らず、末子相続はこの自治区において一般的なようである。

８年間に家族数の減少があるにもかかわらず、98年の調査においても、多世代世帯がかなり一般的にみられた。子供の数は減って来てはいるが、子供が４人ないし５人というのは決してまれなわけではない。日本のような核家族の世帯はあまり一般的でない。

(ii)　土地保有・利用状況

周知のように中国は社会主義国であるので、土地の所有者は国家である。そこで、一般の農民は利用権を持っている。97年夏の事前調査において、今回の調査地ではないが、同じ南部山地において土地利用権の売買について話を聞く機会があった。利用権の売買は珍しいことではないようである。今回（98年夏）の調査では利用件の売買、あるいは貸借については主要な調査目的としなかったので、調査においてそのような事例は多くはなかった。

表１、２、３は３つの調査地の98年の土地保有状況ならびにその主な利用状況をあらわしたものである。これらの表からわかるように、今日においても農家には自留地が残っているようである。その面積は表示は略すが90年では多い所でも20％未満であり、98年には多い所で10％程度に減少している。

表１　98年同心県小山村集落農地面積

（単位＝ムー）

世帯	面積合計	請・灌・畑	請・非・畑	請・灌・樹	留・灌・畑	留・非・畑
a1	32.5	17.5	15.0	0.0	0.0	0.0
a2	37.0	17.5	17.5	2.0	0.0	0.0
a3	35.0	17.5	17.5	0.0	0.0	0.0
a4	27.5	22.5	0.0	5.0	0.0	0.0
a5	27.0	12.5	12.5	0.0	0.0	2.0（樹園地）
a6	30.0	15.0	15.0	0.0	0.0	0.0
a7	27.5	17.5	10.0	0.0	0.0	0.0
a8	43.0	20.0	20.0	3.0	0.0	0.0
a9	29.0	15.0	12.0	0.0	2.0（樹園地）	0.0
a10	32.0	15.0	15.0	2.0	0.0	0.0
a11	30.0	15.0	15.0	0.0	0.0	0.0
a12	24.5	12.5	10.0	2.0	0.0	0.0
a13	15.5	7.5	6.0	0.0	2.0（樹園地）	0.0
a14	27.0	12.5	12.5	2.0	0.0	0.0
a15	17.5	17.5	0.0	0.0	0.0	0.0
a16	24.0	12.0	10.0	2.0	0.0	0.0
a17	15.5	12.5	0.0	3.0	0.0	0.0
a18	52.0	25.0	25.0	2.0	0.0	0.0
a19	19.5	17.5	0.0	2.0	0.0	0.0
a20	32.0	15.0	15.0	2.0	0.0	0.0
a21	32.0	15.0	15.0	2.0	0.0	0.0
a22	32.0	15.0	15.0	2.0	0.0	0.0
a23	26.0	12.0	12.0	2.0	0.0	0.0
a24	27.0	12.5	12.5	2.0	0.0	0.0
a25	37.0	17.5	17.5	2.0	0.0	0.0
a26	37.0	17.5	17.5	2.0	0.0	0.0
a27	47.0	22.5	22.5	2.0	0.0	0.0
a28	60.1	28.0	30.0	2.1	0.0	0.0
a29	24.5	12.5	10.0	2.0	0.0	0.0
a30	32.0	15.0	15.0	2.0	0.0	0.0
合計	932.6	484.5	395.0	47.1	4.0	2.0
平均	31.1	16.2	13.2	1.6	0.1	0.1

留：自留地；灌：灌漑；非：非灌漑；樹：樹園地；請：生産請負。
灌漑率＝57.4％
灌漑面積＝535.6ムー
非灌漑＝397.0ムー
計＝932.6ムー

土地利用のほとんどは「生産請負」の土地である。

表示してないが、90年に関しては、1戸あたり合計面積の平均では白河集落が47.2ムーで1番大きく、2番目が小山村の42.6ムー、3番目が上堡集落の31.0ムーである。98年では表からわかるように1戸あたり合計面積では白河集落が36.1ムー、次が小山村で31.1ムー、最小が上堡集落の24.0ムーである。全体に合計面積では1戸あたり農地は減少している。人口が増え続けていることがその原因であろう。人口が増えるにもかかわらず、南部山地ではいまだ農業が主要な就業先なのである。

ところで、単位面積当たりで見た灌漑地の生産力と非灌漑地のそれとが著しく異なるので、上で述べたような面積合計にはあまり意味がない。灌漑地をどれほど保有しているかが重要になってくる。そこで重要なのは「請・灌・畑」(生産請負・灌漑・畑)のデータである。これについては90年(資料の表示を略す)には1戸あたり平均で小山村が17.2ムー、上堡集落が10.9ムー、

表2　98年海原県白川集落農地面積

単位:ムー

世帯	面積合計	請・灌・畑	請・非・畑	請・樹	留・灌・畑	留・非・畑	留・樹
b2	51.4	6.0	40.0	0.4	0.0	5.0	0.0
b3	48.2	7.0	36.0	0.0	0.0	5.0	0.2
b4	42.0	6.0	30.0	0.0	0.0	6.0	0.0
b5	37.0	8.0	25.0	0.0	0.0	3.0	1.0
b6	41.0	10.0	20.0	6.0	0.0	5.0	0.0
b7	29.0	6.0	19.0	0.0	0.0	4.0	0.0
b8	33.0	2.5	27.0	3.5	0.0	0.0	0.0
b9	32.0	4.0	28.0	0.0	0.0	0.0	0.0
b10	34.0	6.0	24.0	1.0	0.0	3.0	0.0
b11	45.0	6.0	35.0	0.0	0.0	4.0	0.0
b12	32.4	5.0	23.0	0.0	0.0	4.0	0.4
b13	48.0	6.0	37.0	0.0	0.0	5.0	0.0
b14	20.0	2.0	18.0	0.0	0.0	0.0	0.0
b15	35.0	5.0	25.0	0.0	0.0	5.0	0.0
b16	23.0	5.0	15.0	0.0	0.0	3.0	0.0
b17	29.5	5.0	22.0	0.0	0.0	2.5	0.0
b18	44.2	6.0	31.5	2.7	0.0	4.0	0.0
b19	47.0	5.0	35.0	0.0	0.0	7.0	0.0
b20	45.0	9.0	30.0	0.0	0.0	6.0	0.0
b21	22.0	2.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
b22	27.2	6.0	18.0	0.2	0.0	3.0	0.0
b23	22.8	4.0	12.0	0.8	0.0	6.0	0.0
b24	37.0	3.0	30.0	1.0	0.0	3.0	0.0
b25	31.0	3.0	24.0	0.0	0.0	4.0	0.0
b26	47.5	6.0	36.0	0.5	0.0	5.0	0.0
b27	40.0	10.0	25.0	0.0	0.0	5.0	0.0
b28	49.0	7.0	36.0	0.0	0.0	6.0	0.0
b29	26.0	2.7	20.0	3.3	0.0	0.0	0.0
b30	28.0	5.0	20.0	0.0	0.0	3.0	0.0
合計	1047.2	158.2	761.5	19.4	0.0	106.5	1.6
平均	36.1	5.5	26.3	0.7	0.0	3.7	0.1

請:生産請負;灌:灌漑;非:非灌漑;樹:樹園地・樹苗地・その他;留:自留地。
白川集落灌漑率=15.4%(樹園地、樹苗地その他は含まず)
灌漑面積=158.2
非灌漑=868
合計面積=1026.2

白河集落が8.3ムーであった。これが98年には小山村で16.2ムー、上堡集落で11.6ムー、白河集落で5.5ムーとなっている。

それでは集落全体では農地の灌漑率はどのようになっているであろうか。90年（資料略す）には黄河の水で灌漑している小山村の灌漑率が一番高く約60％、次が同じく黄河の水を利用している上堡集落の約45％、一番低いのが地下水灌漑を利用している白河集落の約18％である。98年には表からわかるように、小山村が57.4％、上堡集落が約51％、白河集落が15.4％である。小山村、白河集落ではこの８年間に灌漑率は低下している。

以上のように、白河集落においては灌漑農地面積と非灌漑農地面積との合計面積では１番大きいのであるが、集落全体の灌漑率が他の２つの集落との比較でかなり低い状況にある。そして98年には90年より集落全体の灌漑率が低下し、１世体あたりの灌漑可能な畑の面積についても98年には90年よりも

表３　98年固原県上堡集落農地面積

（単位:ムー）

世帯	面積合計	請・灌・畑	請・非・畑	請・灌・樹	留・灌・畑	留・非・畑
c1	31.5	15.0	16.0	0.5	0.0	0.0
c2	9.0	5.0	4.0	0.0	0.0	0.0
c3	30.0	9.5	18.0	2.5	0.0	0.0
c4	16.5	8.0	8.0	0.5	0.0	0.0
c5	20.0	8.0	12.0	0.0	0.0	0.0
c6	28.4	20.0	7.0	1.4	0.0	0.0
c7	11.0	7.0	4.0	0.0	0.0	0.0
c8	14.6	10.6	3.3	0.7	0.0	0.0
c9	12.5	12.0	0.0	0.5	0.0	0.0
c10	29.5	16.0	13.0	0.5	0.0	0.0
c11	13.5	6.0	7.5	0.0	0.0	0.0
c12	21.5	12.0	9.0	0.5	0.0	0.0
c13	14.9	6.0	8.0	0.9	0.0	0.0
c14	51.5	26.0	25.0	0.5	0.0	0.0
c15	28.0	16.0	12.0	0.0	0.0	0.0
c16	31.0	16.0	15.0	0.0	0.0	0.0
c17	10.7	7.0	3.0	0.7	0.0	0.0
c18	36.0	16.0	20.0	0.0	0.0	0.0
c19	6.0	3.5	2.0	0.5	0.0	0.0
c20	20.0	8.0	11.0	1.0	0.0	0.0
c21	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0
c22	28.0	16.0	10.0	2.0	0.0	0.0
c23	24.0	12.0	12.0	0.0	0.0	0.0
c24	34.8	13.0	21.0	0.8	0.0	0.0
c25	29.0	9.0	20.0	0.0	0.0	0.0
c26	22.0	7.0	14.0	1.0	0.0	0.0
c27	25.0	12.0	11.0	2.0	0.0	0.0
c28	25.8	11.0	14.0	0.8	0.0	0.0
c29	32.0	12.0	20.0	0.0	0.0	0.0
c30	24.8	12.0	12.0	0.8	0.0	0.0
c31	30.0	10.0	18.0	2.0	0.0	0.0
c32	18.0	10.0	8.0	0.0	0.0	0.0
合計	769.5	371.6	377.8	20.1	0.0	0.0
平均	24.0	11.6	11.8	0.6	0.0	0.0

留：自留地；灌：灌漑；非：非灌漑；樹：樹園地；請：生産請負。
灌漑率＝50.9％
灌漑面積＝391.7ムー
非灌漑面積＝377.8ムー
計＝769.5ムー

縮小している。

土地利用状況は畑としての利用が90年、98年ともに90％以上と圧倒的に多い。樹園地等のその他の利用はわずかである。

(iii) 南部山地における農業生産の性格

(ア) 出荷率

表４、５、６は97年の主要な耕種作物の生産額と出荷額ならびに出荷率（生産額に占める販売額の割合）をあらわしている。89年については、自家消費率が不明であるので、このような表を作ることが出来ない。97年については表に見られるように、この自治区における主要な耕種生産物は小麦、トウモロコシ、馬鈴薯である。

上の３つの表から、小麦については３集落に共通して出荷率が低い。上堡集落ではまったく出荷されていない。他の２つの集落においても、20ないし23％である。小麦は主として自家消費用に栽培されていることがわかる。

トウモロコシについては、白河集落では生産していない。これに対して小山村においては生産額の94％が出荷される。上堡集落では出荷率は約30％である。

馬鈴薯については白河集落では出荷率は23.4％と低く、自家消費する農家が多い。また、他の地域と比較して生産額そのものが大きい。その他の２集落ではそれほど生産額は大きくない。小山集落ではあまり作られていない。上堡集落ならびに小山村とも生産額の70％以上が出荷されており、とくに小山村では96％が出荷されている。

この表ではスペースの関係上キビにはキビ以外の耕種作物が入っている。これらについてはとくに小山村ではあまり生産されていない。上堡集落ならびに白河集落においてはかなり生産されている。いずれにせよ、３集落ともその出荷率は70％以上である。

全体で見ると、白河集落では生産総額の34.1％が出荷され、上堡集落では58.0％、小山村では67.8％が出荷されている。

表4　98年小山村主要生産物出荷率

（単位：元、%）

	小麦			トウモロコシ			馬鈴薯			キビ			果樹			合計		
世帯	生産額	出荷額	出荷率	生産額	出荷額	出荷率	生産額	出荷額	出荷率	生産額	出荷額	出荷率	生産額	出荷額	出荷率	生産額	出荷額	出荷率
a1	2800.0	800.0	28.6	4500.0	4500.0	100.0	1080.0	900.0	83.3	0.0			5840.0	4260.0	72.9	14240.0	10460.0	73.5
a2	3200.0	1600.0	50.0	4500.0	4500.0	100.0	0.0			0.0			3920.0	3180.0	81.1	11620.0	9280.0	79.9
a3	3520.0	2400.0	68.2	4800.0	4800.0	100.0	0.0			0.0			2440.0	1740.0	71.3	10760.0	8940.0	83.1
a4	4800.0	0.0	0.0	5000.0	5000.0	100.0	0.0			3600.0	3600.0	100.0	10700.0	8500.0	79.4	23420.0	16600.0	70.9
a5	1600.0	0.0	0.0	3780.0	3780.0	100.0	0.0			0.0			1390.0	0.0	0.0	6970.0	3780.0	54.2
a6	2400.0	0.0	0.0	4500.0	4500.0	100.0	0.0			0.0			4800.0	3800.0	79.2	11592.0	8300.0	71.6
a7	1920.0	0.0	0.0	5170.0	0.0	0.0	?	?	?	0.0			1810.0	1000.0	55.2	9400.0	5700.0	60.6
a8	2800.0	0.0	0.0	6760.0	6760.0	100.0	1500.0	1500.0	100.0	400.0	0.0	0.0	4500.0	0.0	0.0	15960.0	8260.0	51.8
a9	3360.0	1600.0	47.6	4860.0	2880.0	59.3	160.0	140.0	87.5	0.0			2830.0	2830.0	100.0	12054.0	6594.0	54.7
a10	3200.0	1600.0	50.0	3600.0	3600.0	100.0	0.0			0.0			3160.0	2010.0	63.6	9960.0	7210.0	72.4
a11	3200.0	1600.0	50.0	4050.0	4050.0	100.0	0.0			0.0			2520.0	1860.0	73.8	9770.0	7510.0	76.9
a12	1120.0	0.0	0.0	1950.0	1950.0	100.0	200.0	0.0	0.0	0.0			1500.0	1500.0	100.0	4770.0	3450.0	72.3
a13	1120.0	0.0	0.0	1640.0	1640.0	100.0	0.0			0.0			0.0			2760.0	1640.0	59.4
a14	2400.0	0.0	0.0	3600.0	3600.0	100.0	0.0			0.0			2520.0	1800.0	71.4	8520.0	5400.0	63.4
a15	3200.0	0.0	0.0	5400.0	5400.0	100.0	0.0			0.0			1920.0	1200.0	62.5	10520.0	6600.0	62.7
a16	1920.0	1920.0	100.0	3150.0	3150.0	100.0	0.0			0.0			1290.0	840.0	65.1	6360.0	3990.0	62.7
a17	2400.0	0.0	0.0	3600.0	3600.0	100.0	0.0			0.0			3640.0	2940.0	80.8	9640.0	6540.0	67.8
a18	4800.0	1600.0	33.3	6750.0	6750.0	100.0	0.0			0.0			4210.0	3380.0	80.3	15760.0	11730.0	74.4
a19	3200.0	0.0	0.0	4500.0	4500.0	100.0	0.0			0.0			1320.0	600.0	45.5	9020.0	5100.0	56.5
a20	2400.0	0.0	0.0	4500.0	4500.0	100.0	0.0			0.0			3320.0	2440.0	73.5	10220.0	6940.0	67.9
a21	3200.0	0.0	0.0	4500.0	4500.0	100.0	0.0			0.0			3980.0	3160.0	79.4	11680.0	7660.0	65.6
a22	6400.0	1600.0	25.0	900.0	900.0	100.0	4500.0	4500.0	100	400.0	240.0	60.0	4600.0	3680.0	80.0	16800.0	10920.0	65.0
a23	2400.0	0.0	0.0	3150.0	3150.0	100.0	0.0			0.0			3360.0	2640.0	78.6	8910.0	5790.0	65.0
a24	2400.0	0.0	0.0	3600.0	3600.0	100.0	0.0			0.0			2820.0	2040.0	72.3	8820.0	5640.0	63.9
a25	4320.0	2720.0	63.0	3600.0	3600.0	100.0	0.0			200.0	120.0	60.0	3840.0	3660.0	95.3	11960.0	10100.0	84.4
a26	3600.0	1600.0	44.4.0	4500.0	4500.0	100.0	0.0			0.0			3870.0	3040.0	78.6	11970.0	9140.0	76.4
a27	1800.0	0.0	0.0	0.0			0.0			0.0			5560.0	4420.0	79.5	7360.0	4420.0	60.1
a28	2240.0	0.0	0.0	3136.0	3136.0	100.0	3600.0	3600.0	100.0	700.0	0.0	0.0	1200.0	100.0	8.3	10876.0	6836.0	62.9
a29	2240.0	0.0	0.0	2200.0	2200.0	100.0	0.0			280.0	0.0	0.0	1107.0	1107.0	100.0	5827.0	3307.0	56.8
a30	2400.0	800.0	33.3.0	4500.0	4500.0	100.0	0.0			0.0			2820.0	1920.0	68.1	9720.0	7220.0	74.3
台計	86360.0	19840.0	23.0	116696.0	109546.0	93.9	11040.0	10640.0	96.4	5580.0	3960.0	71.0	96787.0	69647.0	72.0	317239.0	215057.0	67.8
平均	2878.7	661.3	23.0	3889.9	3651.5	93.9	368.0	354.7	96.4	186.0	132.0	71.0	3226.2	2321.6	72.0	10574.6	7168.6	67.8

注1）：小麦の納税分は自家消費（生産額）に含めてある。
注2）：畜産物の生産・出荷の金額は除外してある。
注3）：a4農家のキビは甜菜である。
注4）：a7の馬鈴薯は計算から除外してある。
注5）：a12の馬鈴薯はクローバーである。
注6）：a22の馬鈴薯は甜菜である。
注7）：a28のキビには胡麻を含む。

表5　98年白河集落主要生産物出荷率

（単位：元、%）

	小麦			トウモロコシ			馬鈴薯			キビ			果樹			台計		
世帯	生産額	出荷額	出荷率	生産額	出荷額	出荷率	生産額	出荷額	出荷率	生産額	出荷額	出荷率	生産額	出荷額	出荷率	生産額	出荷額	出荷率
b1																		
b2	3840.0	0.0	0.0	0.0			1600.0	800.0	50.0	1712.0	1512.0	88.3	0.0			7152.0	2312.0	32.3
b3	4050.0	2250.0	55.6	0.0			1500.0	400.0	26.7	1636.0	1186.0	72.5	150.0	150.0	100.0	7336.0	3986.0	54.3
b4	4214.0	1400.0	33.2	0.0			648.0	0.0	0.0	1788.0	1640.0	91.7	0.0			6650.0	3040.0	45.7
b5	4530.0	750.0	16.6	0.0			432.0	0.0	0.0	2254.0	1840.0	81.6	240.0	240.0	100.0	7456.0	2830.0	38.0
b6	1755.0	975.0	55.6	0.0			360.0	0.0		2750.0	770.0	28.0	0.0			4865.0	1745.0	35.9
b7	3120.0	0.0	0.0	0.0			720.0	0.0	0.0	250.0	150.0	60.0	80.0	80.0	100.0	4170.0	230.0	5.5
b8	650.0	0.0	0.0	0.0			270.0	0.0	0.0	210.0	210.0	100.0	0.0			1130.0	210.0	18.6
b9	624.0	0.0	0.0	0.0			0.0			0.0			0.0			624.0	0.0	0.0
b10	2800.0	0.0	0.0	0.0			920.0	800.0	87.0	600.0	0.0	0.0	500.0	500.0	100.0	4470.0	1300.0	29.1
b11	3920.0	700.0	17.9	0.0			1750.0	250.0	14.3	820.0	700.0	85.4	120.0	120.0	100.0	6610.0	1770.0	26.8
b12	2772.0	812.0	29.3	0.0			640.0	200.0	31.3	210.0	210.0	100.0	0.0			3622.0	1222.0	33.7
b13	4788.0	1400.0	29.2	0.0			1080.0	0.0	0.0	900.0	900.0	100.0	0.0			6768.0	2300.0	34.0
b14	162.4	0.0	0.0	0.0			140.0	0.0	0.0	320.0	320.0	100.0	0.0			622.4	320.0	51.4
b15	5015.0	1700.0	33.9	0.0			800.0	0.0	0.0	1454.0	680.0	46.8	0.0			7269.0	2380.0	32.7
b16	3108.0	420.0	13.5	0.0			980.0	660.0	67.3	1412.0	1332.0	94.3	0.0			5500.0	2412.0	43.9
b17	3780.0	630.0	16.7	0.0			600.0			360.0	360.0	100.0	0.0			4740.0	990.0	20.9
b18	1248.0	0.0	0.0	0.0			1260.0	0.0	0.0	1835.0	505.0	27.5	0.0			4343.0	505.0	11.6
b19	4760.0	980.0	20.6	0.0			1080.0	0.0	0.0	1160.0	960.0	82.8	360.0	360.0	100.0	7360.0	2300.0	31.3
b20	1400.0	0.0	0.0	0.0			225.0	75.0	33.3	826.0	180.0	21.8	0.0			2451.0	255.0	10.4
b21	315.0	0.0	0.0	0.0			0.0			0.0			0.0			315.0	0.0	0.0
b22	1088.0	0.0	0.0	0.0			450.0	0.0	0.0	1878.5	1500.0	79.9	100.0	100.0	100.0	3516.5	1600.0	45.5
b23	2100.0	0.0	0.0	0.0			1500.0	1200.0	80.0	1100.0	700.0	63.6	0.0			4700.0	1900.0	40.4
b24	3150.0	750.0	23.8	0.0			300.0	0.0	0.0	1400.0	1400.0	100.0	300.0	300.0	100.0	5150.0	2450.0	47.6
b25	2226.0	700.0	31.4	0.0			720.0	450.0	62.5	968.0	968.0	100.0	0.0			3914.0	2118.0	54.1
b26	4275.0	900.0	21.1	0.0			1008.0	0.0	0.0	1188.0	360.0	30.3	0.0			6471.0	1260.0	19.5
b27	3710.0	1120.0	30.2	0.0			756.0	0.0	0.0	1140.0	960.0	84.2	0.0			5606.0	2080.0	37.1
b28	4032.0	630.0	15.6	0.0			864.0	0.0	0.0	2060.0	1820.0	88.3	60.0	60.0	100.0	7016.0	2510.0	35.8
b29	2100.0	0.0	0.0	0.0			180.0	90.0	50.0	1370.0	960.0	70.1	0.0			3650.0	1050.0	28.8
b30	3300.0	750.0	22.7	0.0			1120.0	200.0	17.9	1590.0	1590.0	100.0	0.0			6010.0	2540.0	42.3
台計	82832.4	16867.0	20.4	0.0			21903.0	5125.0	23.4	33191.5	23713.0	71.4	1910.0	1910.0	100.0	139486.9	47615.0	34.1
平均	2856.3	581.6	20.4	0.0			755.3	176.7	23.4	1144.5	817.7	71.4	65.9	65.9	100.0	4809.9	1641.9	34.1

注1）：小麦の生産額には農業税を含む。
注2）：畜産物の生産・出荷の金額は少ないので除外してある。
注3）：b2, b11, b16, b19, b23, b26, b27のキビにはゴマを含む。
注4）：b3, b4, b5, b28のキビにはゴマとねぎを含む。
注5）：b6のキビにはエンドウ、小かい香（香辛料）、ゴマ、馬ごやしを含む。
注6）：b8, b12, b14, b17のキビは豌豆である。
注7）：b13, b24のキビはネギである。
注8）：b15, b30のキビはゴマとネギである。
注9）：b18のキビは、ゴマ、ウマゴヤシ、エンドウである。
注10）：b20のキビにはゴマ、ウマゴヤシを含む。
注11）：b22, b25, b29のキビはゴマとエンドウである。

表6　98年固原県上堡集落主要生産物出荷率

（単位：元、%）

	小麦			トウモロコシ			馬鈴薯			キビ			果樹			合計		
世帯	生産額	出荷額	出荷率	生産額	出荷額	出荷率	生産額	出荷額	出荷率	生産額	出荷額	出荷率	生産額	出荷額	出荷率	生産額	出荷額	出荷率
c1	2880.0	0.0	0.0	400.0	0.0	0.0	1200.0	1200.0	100.0	3220.0	2160.0	67.1	0.0			7700.0	3360.0	43.6
c2	400.0	0.0	0.0	0.0			0.0			1880.0	1800.0	95.7	0.0			2280.0	1800.0	78.9
c3	1600.0	0.0	0.0	1440.0	0.0	0.0	0.0			2188.0	1388.0	63.4	0.0			5228.0	1388.0	26.5
c4	800.0	0.0	0.0	320.0	0.0	0.0	380.0	380.0	100.0	4256.0	4000.0	94.0	0.0			5756.0	4380.0	76.1
c5	800.0	0.0	0.0	0.0			0.0			2065.0	1960.0	94.9	0.0			2865.0	1960.0	68.4
c6	2640.0	0.0	0.0	480.0	0.0	0.0	0.0			4160.0	4000.0	96.2	0.0			7280.0	4000.0	54.9
c7	1680.0	0.0	0.0	572.0	572.0	100.0	800.0	800.0	100.0	1452.0	1200.0	82.6	0.0			4504.0	2572.0	57.1
c8	1920.0	0.0	0.0	0.0			700.0	700.0	100.0	3806.0	3220.0	84.6	100.0	100.0	100.0	6526.0	4020.0	61.6
c9	1920.0	0.0	0.0	1080.0	0.0	0.0	0.0			1500.0	1500.0	100.0	0.0			4500.0	1500.0	33.3
c10	1920.0	0.0	0.0	1200.0	600.0	50.0	1100.0	1100.0	100.0	5720.0	5400.0	94.4	400.0	400.0	100.0	10340.0	7500.0	72.5
c11	480.0	0.0	0.0	350.0	100.0	28.6	374.4	0.0	0.0	1470.0	680.0	46.3	0.0			2674.4	780.0	29.2
c12	960.0	0.0	0.0	320.0	0.0	0.0	0.0			2152.0	2000.0	92.9	0.0			3432.0	2000.0	58.3
c13	840.0	0.0	0.0	0.0			0.0			2160.0	1800.0	83.3	0.0			3000.0	1800.0	60.0
c14	4000.0	0.0	0.0	920.0	920.0	100.0	2000.0	2000.0	100.0	11730.0	10000.0	85.3	0.0			18650.0	12920.0	69.3
c15	2240.0	0.0	0.0	1472.0	0.0	0.0	480.0	360.0	75.0	1310.0	830.0	63.4	0.0			5502.0	1190.0	21.6
c16	1920.0	0.0	0.0	1395.0	0.0	0.0	540.0	540.0	100.0	2305.0	1670.0	72.5	0.0			6160.0	2210.0	35.9
c17	1040.0	0.0	0.0	0.0			2600.0	2000.0	76.9	2550.0	2550.0	100.0	650.0	0.0	0.0	6840.0	4550.0	66.5
c18	640.0	0.0	0.0	1120.0	0.0	0.0	1200.0	0.0	0.0	2334.0	1650.0	70.7	0.0			5294.0	1650.0	31.2
c19	320.0	0.0	0.0	0.0			0.0			260.0	0.0	0.0	0.0			580.0	0.0	0.0
c20	1920.0	0.0	0.0	1200.0	1000.0	83.3	700.0	500.0	71.4	3200.0	3200.0	100.0	420.0	420.0	100.0	7440.0	5120.0	68.8
c21	4000.0	0.0	0.0	1000.0	1000.0	100.0	800.0	800.0	100.0	5600.0	5600.0	100.0	0.0			11400.0	7400.0	64.9
c22	720.0	0.0	0.0	360.0	0.0	0.0	400.0	0.0	0.0	1980.0	1400.0	70.7	0.0			3460.0	1400.0	40.5
c23	640.0	0.0	0.0	200.0	0.0	0.0	200.0	0.0	0.0	3966.0	3400.0	85.7	0.0			5006.0	3400.0	67.9
c24	320.0	0.0	0.0	368.0	0.0	0.0	200.0	0.0	0.0	4600.0	4200.0	91.3	0.0			5488.0	4200.0	76.5
c25	1024.0	0.0	0.0	200.0	200.0	100.0	0.0			3050.0	2700.0	88.5	0.0			4274.0	2900.0	67.9
c26	800.0	0.0	0.0	300.0	300.0	100.0	360.0	0.0	0.0	2240.0	1960.0	87.5	0.0			3700.0	2260.0	61.1
c27	480.0	0.0	0.0	240.0	0.0	0.0	200.0	0.0	0.0	1780.0	1300.0	73.0	0.0			2700.0	1300.0	48.1
c28	912.0	0.0	0.0	330.0	165.0	50.0	0.0			5010.0	4470.0	89.2	0.0			6252.0	4635.0	74.1
c29	960.0	0.0	0.0	280.0	0.0	0.0	200.0	200.0	100.0	2904.0	1870.0	64.4	0.0			4344.0	2070.0	47.7
c30	880.0	0.0	0.0	300.0	300.0	100.0	600.0	600.0	100.0	3724.0	3388.0	91.0	1500.0	1500.0	100.0	7004.0	5788.0	82.6
c31	1280.0	0.0	0.0	945.0	0.0	0.0	0.0			1860.0	1700.0	91.4	1000.0	1000.0	100.0	5085.0	2700.0	53.1
c32	2160.0	0.0	0.0	640.0	0.0	0.0	0.0			3216.0	2358.0	73.3	0.0			6016.0	2358.0	39.2
合計	45096.0	0.0	0.0	17432.0	5157.0	29.6	15034.4	11180.0	74.4	99648.0	85354.0	85.7	4070.0	3420.0	84.0	181280.4	105111.0	58.0
平均	1409.3	0.0	0.0	544.8	161.2	29.6	469.8	349.4	74.4	3114.0	2667.3	85.7	127.2	106.9	84.0	5665.0	3284.7	58.0

注１）：小麦の納税分は生産額に含めてある。注
注２）：畜産物の生産・出荷の金額は除外してある。
注３）：c1のキビはテンサイ、ヒマワリ、ゴマ、その他である。
注４）：c2のキビはテンサイ、ヒマワリ、アワである。
注５）：c3のキビにはゴマ、アワを含む。
注６）：c4, c10のキビにはヒマワリ、テンサイ、アワを含む。
注７）：ｃ5のキビにはアワ、ヒマワリ、ゴマ、テンサイを含む。
注８）ｃ6のキビにはテンサイ、エンドウ豆を含む。
注９）ｃ7のキビはヒマワリとエンドウ豆である。
注10）：c8のキビにはテンサイ、ゴマ、ヒマワリを含む。
注11）c9, c17のキビはヒマワリである。
注12）c11, c27のキビにはヒマワリ、アワを含む。
注13）c12のキビはヒマワリ、テンサイ、ゴマである。
注14）c13のキビはヒマワリ、アワ、蕎麦である。
注15）c14, c16のキビはヒマワリ、アワ、ゴマである。
注16）c15, c22のキビにはヒマワリ、ゴマを含む。
注17）c18のキビはヒマワリ、ゴマである。
注18）c19のキビはゴマとエンドウである。
注19）c20のキビはヒマワリである。
注20）c21のキビはヒマワリ、テンサイである。
注21）c23のキビにはヒマワリ、エンドウ、ソバ、西瓜を含む。
注22）c24のキビにはテンサイ、ヒマワリを含む。
注23）c26のキビにはアワ、エンドウ、ヒマワリを含む。
注24）c25のキビはヒマワリ、テンサイ、ゴマ、アワである。
注25）c28のキビにはテンサイ、ヒマワリ、ゴマ、エンドウを含む。
注26）ｃ29のキビにはヒマワリ、ゴマ、アワを含む。
注27）c30のキビにはヒマワリ、ゴマ、アワ、エンドウを含む。
注28）c31のキビにはヒマワリを含む。
注29）c32のキビはテンサイ、ヒマワリ、ゴマ、エンドウである。

以上から、農産物の種類によって3つの集落の出荷率が異なることがわかる。小麦については3集落とも主として自家消費用に栽培している。そういう状況下で白河集落の出荷率の低さ、小山村の出荷率の高さが対照的である。

白河集落においては農業生産は主に自家消費のためになされていること、これに対して小山村では相対的に農業生産が市場向けになされていること、上堡集落は2つの集落の中間の性格を持っていることがわかる。

(イ) 出荷先

表7、8、9は97年の耕種生産物ならびに畜産物の出荷先を示したものである。表の中の「食料倉庫」とは、自治区政府、県政府、郷政府等公的機関への販売を意味している。

この表から、県境を越えて取り引きされる事例は非常に少ないことがわかる。資料の表示は略すが、89年についても同様である。3つの調査地域とも

表7　97年同心県小山村主要農産物出荷先（畜産含む）

世帯	小麦	馬鈴薯	トウモロコシ	油糧作物(ヒマワリ・ゴマ)	その他(穀物・野菜等)	果樹	畜産物
a1	地元市場	陝西省の流通業者	陝西省の流通業者			県市場	
a2	県市場		県市場			県市場	
a3	県市場		県市場			県市場	
a4			県市場		県食料倉庫	県市場	
a5			庭先取引（県内の商人）				
a6			県市場			県市場	
a7		流通業者へ	地元の業者			県市場	
a8		県市場	県市場				
a9	県市場		県市場			県市場	県市場
a10	県市場		県市場			県市場	
a11	県市場		県市場			県市場	?
a12			県市場			?	県市場
a13			?				
a14			県市場			県市場	?
a15			県市場			県市場	
a16			県市場			県市場	
a17			県市場			県市場	
a18	県市場		県市場			県市場	
a19			県市場			県市場	
a20			県市場			県市場	
a21			県市場			県市場	?
a22	県市場		県市場		銀川市砂糖工場	県市場	
a23			県市場			県市場	
a24			県市場			県市場	
a25	県市場		県市場		県市場	県市場	
a26	県市場		県市場			県市場	
a27						県市場	
a28							
a29						県市場	
a30	県市場		県市場			県市場	

注：？は出荷先が不明のもの。

に、農産物はほとんど県内で取り引きされている。例外は小山村ではa１農家の馬鈴薯、トウモロコシが自治区を越えた陝西省の流通業者に、a22農家の「その他」（甜菜）が銀川市の砂糖工場へ、販売されている。白河集落ではb５農家の「その他」が他県の流通業者へ、b30農家の「その他」が他県の農家へ販売されている。上堡集落ではc16農家の油糧作物が自治区を越えて陝西省へ、c31農家の油糧作物が県外へ、c１農家の畜産物が中寧県へ出荷されている。

販売先について89年（資料の表示を略す）と97年との違いの１つは、89年には同心県小山村、固原県上堡集落において、小麦、油料作物に関して、自治区政府・県政府・郷政府の食料倉庫（公的機関）への売却がかなりの件数見られたのが、97年には２例を除いて、ほとんど見られなくなったことである。代わって自由市場である県市場、地元市場での販売が圧倒的に多くなっ

表８　97年海原県白河集落主要農産物出荷先（畜産含む）

世帯	小麦	馬鈴薯	トウモロコシ	油糧作物(ヒマワリ・ゴマ)	その他(穀物・野菜等)	果樹	畜産物
b1							
b2		県市場		県市場			?
b3	県市場	県市場		県市場		県市場	県市場
b4	県市場			県市場	県市場		県市場
b5	県市場			?	県市場・他県の流通業者	県市場	
b6	県市場			県市場	県市場		
b7					県市場	村内	
b8							
b9							
b10		県市場					県市場
b11	県市場	県市場		県市場		県市場	県市場
b12	村内	村内			県市場		県市場
b13	県市場				県市場・よその流通業者		
b14							
b15	県市場						
b16	県市場	県市場		県市場			県市場
b17	県市場						
b18				県市場	県市場		県市場
b19	県市場			県市場		?	
b20		県市場		県市場			県市場
b21							県市場
b22							
b23		親戚		県市場			県市場
b24	県市場				県市場	県市場	
b25	県市場	県市場		県市場			
b26	県市場			県市場			県市場
b27	県市場			県市場			
b28	県市場	海民中学校				村内	
b29				業者が買いにくる	業者が買いにくる		県市場・弟
b30	県市場	村の農家		県市場	他県の農家が買いに来る		

注：？は出荷先が不明のもの。

ている。これに対し、白河集落においては89年、97年ともに公的機関への売却が見られない。ここで県ならびに市町村の自由市場とは、農家からさほど遠くない場所での販売、いわゆる青空市場での販売である。農民自身が生産物を市場まで運び、市場で販売をするのである。我々が見学した2つの市場では、かなり多くの出店が見られ、多様なものが売買されていた。

また、果樹ならびに畜産物については89年、97年ともに政府への売却は見られず、自由市場で販売されている。

以上より、3つの調査地域においては農産物の流通範囲が非常に狭いことがわかる。これは、南部山地においては基本的に農業生産が自給生産としての性格を持っており、特定の市場向けに大量に生産されるのではないこと、自動車の普及が始まったばかりであること、また鉄道はあるが、1日の列車の運行本数が少ないこと（銀川－固原間の列車は客車の場合、1日5～6往

表9　97年固原県上堡集落主要農産物出荷先（畜産含む）

世帯	小麦	馬鈴薯	トウモロコシ	油糧作物(ヒマワリ・ゴマ)	その他(穀物・野菜等)	果樹	畜産物
c 1		七営鎮市場		七営鎮市場	七営鎮市場		七営鎮市場
c 2				七営鎮市場	七営鎮市場		
c 3							中寧県
c 4		七営鎮市場		七営鎮市場	七営鎮市場		
c 5				個人に売却	自治区政府		
c 6					七営鎮市場		七営鎮市場
c 7		七営鎮市場	七営鎮市場	七営鎮市場			
c 8		七営鎮市場		七営鎮市場	七営鎮市場		七営鎮市場
c 9				七営鎮市場			
c 10		七営鎮市場	七営鎮市場	七営鎮市場	七営鎮市場	七営鎮市場	七営鎮市場
c 11			七営鎮市場	陝西省(県外)			
c 12				七営鎮市場	七営鎮市場		
c 13				七営鎮市場			
c 14		七営鎮市場		七営鎮市場			
c 15		七営鎮市場		七営鎮市場			七営鎮市場
c 16				陝西省（県外）			街の市場
c 17		自治区政府		県内の業者			七営鎮市場
c 18				七営鎮市場			七営鎮市場
c 19							
c 20		七営鎮市場	七営鎮市場	七営鎮市場		七営鎮市場	七営鎮市場
c 21		七営鎮市場	七営鎮市場	七営鎮市場	砂糖工場		七営鎮市場
c 22				七営鎮市場			
c 23				七営鎮市場			
c 24				七営鎮市場	七営鎮市場		
c 25			七営鎮市場	七営鎮市場	七営鎮市場		
c 26			自治区政府	専門業者	七営鎮市場		
c 27				専門業者			
c 28			七営鎮市場	七営鎮市場	七営鎮市場		
c 29		七営鎮市場		七営鎮市場			
c 30		七営鎮市場	七営鎮市場	七営鎮市場		七営鎮市場	
c31				県外の業者			
c32				七営鎮市場	七営鎮市場		七営鎮市場

復程度の運行である)、などの事情によるものであると思われる。そして、自給以外に販売される農畜産物の主な販売先は、89年には政府機関への売却が一定程度見られたのが、97年には県ならびに市町村の自由市場での販売がほとんどを占めるようになっている。

(iv)　8年間の所得の変化

表10、11、12は3つの集落の89年の収入、経費、農家所得、家計費をあらわしている。農業収入とは農産物の販売額の事である。ただし、農業収入ならびに収入計には自家消費分は入っていない。

これら3つの表から小山村の収入が一番多く、ついで白河集落、一番少な

表10　同心県小山村89年収支－自家消費分を除く

単位：元

世帯	農業収入	兼業収入	その他収入	収入計	農業・兼業経費	農家所得(A)	家計支出(B)	余剰(A-B)
a1	4700.0	1800.0	180.0	6680.0	1082.0	5598.0	3824.0	1774.0
a2	4816.0	5000.0	150.0	9966.0	3461.0	6505.0	4325.0	2180.0
a3	2957.2	4500.0	0.0	7457.2	1480.0	5977.2	4311.0	1666.2
a4	7804.7	3600.0	0.0	11404.7	12490.0	-1085.4	8094.0	−9179.4
a5	3367.1	0.0	0.0	3367.1	792.0	2575.1	2091.0	484.1
a6	1638.1	8000.0	0.0	9638.1	3402.0	6236.1	3578.0	2658.1
a7	2200.0	1632.0	0.0	3832.0	1340.0	2492.0	1339.0	1153.0
a8	3156.0	4000.0	0.0	7156.0	5500.0	1656.0	4734.0	−3078.0
a9	2374.3	0.0	0.0	2374.3	1065.0	1309.3	2698.0	−1388.8
a10	2937.0	0.0	100.0	3037.0	795.0	2242.0	8316.0	−6074.0
a11	2091.9	2000.0	0.0	4091.9	994.5	3097.4	760.0	2337.4
a12	1831.0	2000.0	0.0	3831.0	1522.0	2309.0	2436.0	−127.0
a13	1574.8	4500.0	0.0	6074.8	790.0	5284.8	890.0	4394.8
a14	1824.3	3000.0	0.0	4824.3	700.0	4124.3	10587.0	−6462.8
a15	1408.0	0.0	0.0	1408.0	552.0	856.0	3084.0	−2228.1
a16	3631.0	0.0	0.0	3631.0	6394.0	-2763.1	2999.0	−5762.1
a17	5338.0	0.0	150.0	5488.0	1170.0	4318.0	4280.0	38.0
a18	7416.0	2320.0	0.0	9736.0	4097.0	5639.0	4985.0	654.0
a19	4335.2	1200.0	0.0	5535.2	1660.0	3875.2	3340.0	535.2
a20	5956.5	300.0	0.0	6256.5	2014.0	4242.5	2350.0	1892.5
a21	4109.0	1600.0	0.0	5709.0	1183.0	4526.0	2500.0	2026.0
a22	6587.0	2350.0	0.0	8937.0	8696.0	241.0	1776.0	−1535.0
a23	1685.0	0.0	0.0	1685.0	1080.0	605.0	800.0	−195.0
a24	1757.2	0.0	0.0	1757.2	930.0	827.2	1100.0	−272.8
a25	5504.2	2000.0	0.0	7504.2	1929.0	5575.2	10978.0	−5402.8
a26	3826.2	4100.0	0.0	7926.2	1677.5	6248.7	3256.0	2992.7
a27	4164.1	4050.0	0.0	8214.1	3960.0	4254.1	2400.0	1854.1
a28	3272.0	3600.0	0.0	6872.0	2958.0	3914.0	1380.0	2534.0
a29	3620.0	500.0	0.0	4120.0	1350.0	2770.0	1206.0	1564.0
a30	1125.8	300.0	1000.0	2425.8	1097.5	1328.3	748.0	580.3
合計	107007.3	62352.0	1580.0	170939.3	76161.5	94777.8	105165.0	−10387.2
平均	3566.9	2078.4	52.7	5698.0	2538.7	3159.3	3505.5	−346.2
割合(%)	62.6	36.5	0.0	100.0				

注1：農業収入とは販売額のことである。
注2：経費には税金を含む。

いのが上堡集落であることがわかる。次に収入計から経費を差し引いた農家所得でみると、一番多いのは白河集落、次が小山村、一番少ないのが上堡集落である。農家所得から家計支出を差し引いた余剰については農家所得と同じ順位になっている。ただし、小山村ならびに上堡集落の余剰はマイナスとなっている。また収入計の内訳については小山村では農産物販売からの収入が63%、兼業からの収入が37%であるが、白河集落では兼業からの収入が53%以上を占めている。上堡集落では農業収入と兼業収入がほぼ同じである。農業からの収入を見ると、灌漑率が一番高い小山村が一番多く、灌漑率が一番低い白河集落が2番目、上堡集落が一番少ない。

97年について。まず自家消費分を除いた場合を検討する。表13、14、15か

表11　海原県白河集落89年収支－自家消費分を除く

単位：元

世帯	農業収入	兼業収入	その他収入	収入計	農業・兼業経費	農家所得(A)	家計支出(B)	余剰(A-B)
b1	1374.0	0.0	4500.0	5874.0	1307.0	4567.0	2820.0	1747.0
b2	2930.0	0.0	600.0	3530.0	799.8	2730.3	2000.0	730.3
b3	2174.0	14800.0	1000.0	17974.0	3245.0	14729.0	5050.0	9679.0
b4	2792.2	500.0	240.0	3532.2	1268.0	2264.2	1160.0	1104.2
b5	1295.0	600.0	2400.0	4295.0	1164.0	3131.0	1520.0	1611.0
b6	914.0	1200.0	420.0	2534.0	1859.0	675.0	1010.0	−335.0
b7	502.0	18000.0	0.0	18502.0	3633.0	14869.0	2320.0	12549.0
b8	3480.4	1500.0	400.0	5380.4	1491.3	3889.2	1190.0	2699.2
b9	1824.0	2550.0	0.0	4374.0	1325.0	3049.0	650.0	2399.0
b10	2718.4	800.0	120.0	3638.4	1148.0	2490.4	910.0	1580.4
b11	1220.0	0.0	3500.0	4720.0	892.0	3828.0	1600.0	2228.0
b12	1022.0	11000.0	590.0	12612.0	3450.0	9162.0	2550.0	6612.0
b13	1456.0	2800.0	200.0	4456.0	1272.7	3183.3	1459.0	1724.3
b14	550.0	2000.0	500.0	3050.0	1175.8	1874.2	668.0	1206.2
b15	1012.8	1000.0	300.0	2312.8	849.3	1463.5	740.0	723.5
b16	1730.0	0.0	340.0	2070.0	944.5	1125.5	590.0	535.5
b17	2269.0	700.0	200.0	3169.0	605.0	2564.0	2140.0	424.0
b18	2236.0	5300.0	2500.0	10036.0	1415.3	8620.7	5960.0	2660.7
b19	1698.0	580.0	2320.0	4598.0	795.0	3803.0	4790.0	−987.0
b20	2643.2	0.0	300.0	2943.2	680.1	2263.1	755.0	1508.1
b21	1354.0	300.0	0.0	1654.0	299.0	1355.0	690.0	665.0
b22	809.0	6780.0	500.0	8089.0	1411.0	6678.0	2670.0	4008.0
b23	1866.0	1500.0	80.0	3446.0	1445.5	2000.5	960.0	1040.5
b24	2330.0	1000.0	1200.0	4530.0	1010.0	3520.0	1520.0	2000.0
b25	180.0	5000.0	300.0	5480.0	2949.8	2530.2	1370.0	1160.2
b26	1598.0	2000.0	500.0	4098.0	1120.5	2977.5	1070.0	1907.5
b27	1646.0	1500.0	400.0	3546.0	1273.8	2272.2	770.0	1502.2
b28	1600.2	0.0	500.0	2100.2	539.8	1560.4	330.0	1230.4
b29	3496.8	4800.0	0.0	8296.8	1916.5	6380.3	3110.0	3270.3
b30	865.2	0.0	360.0	1225.2	310.0	915.2	250.0	665.2
合計	51586.2	86210.0	24270.0	162066.2	41595.6	120470.6	52622.0	67848.6
平均	1719.5	2873.7	809.0	5402.2	1386.5	4015.7	1754.1	2261.6
割合(%)	31.8	53.2	15.0	100.0				

注1：農業収入とは販売額のことである。
注2：経費には税金を含む。

ら、収入計が一番多いのは小山村である。89年と比較して4.2倍に増加している。次に多いのが上堡集落で、89年との比較で3.5倍に増えている。一番少ないのが白河集落で、97年の収入計は89年の0.9倍に、つまり所得が減少している。

農家所得の順位も同じである。余剰についても同じ順位だが、白河集落ではマイナスとなっている。預貯金についても、小山村が一番多く、ついで上堡集落が続く。白河集落では預貯金のデータはないが、余剰がマイナスになっているので、ほとんど無いと考えてよいであろう。収入の構成比については、小山村では89年の調査とは異なって兼業からの収入が64％、農業からの収入が32％である。白河集落では兼業からの収入が43％と50％を割り込んで

表12　固原県上堡集落89年収支-自家消費分を除く

単位：元

世帯	農業収入	兼業収入	その他収入	収入計	農業・兼業経費	農家所得(A)	家計支出(B)	余剰(A-B)
c1	407.0	3800.0	0.0	4207.0	2092.6	2114.4	1730.0	384.4
c2	206.0	400.0	0.0	606.0	205.0	401.0	470.0	−69.0
c3	4999.0	7000.0	0.0	11999.0	3305.0	8694.0	4100.0	4594.0
c4	2038.0	0.0	0.0	2038.0	328.0	1710.0	3800.0	−2090.0
c5	250.0	500.0	0.0	750.0	155.5	594.5	160.0	434.5
c6	2790.0	1800.0	0.0	4590.0	1615.0	2975.0	7520.0	−4545.0
c7	4313.8	320.0	0.0	4633.8	1754.0	2879.8	6860.0	−3980.2
c8	1840.0	0.0	0.0	1840.0	572.0	1268.0	1075.0	193.0
c9	1680.0	3000.0	0.0	4680.0	1049.0	3631.0	2900.0	731.0
c10	4298.0	4464.0	0.0	8762.0	3059.5	5702.5	7800.0	−2097.5
c11	483.0	100.0	0.0	583.0	141.0	442.0	275.0	167.0
c12	719.8	100.0	0.0	819.8	373.0	446.8	600.0	−153.2
c13	0.0	7500.0	0.0	7500.0	2125.0	5375.0	4030.0	1345.0
c14	4854.0	5500.0	0.0	10354.0	3223.0	7131.0	4450.0	2681.0
c15	877.6	20.0	200.0	1097.6	299.5	798.1	425.0	373.1
c16	744.7	1000.0	0.0	1744.7	444.5	1300.2	4450.0	−3149.8
c17	1243.0	1200.0	0.0	2443.0	951.5	1491.5	1800.0	−308.5
c18	2420.0	1500.0	0.0	3920.0	731.5	3188.5	8031.5	−4843.0
c19	300.0	1410.0	0.0	1710.0	273.0	1437.0	950.0	487.0
c20	926.3	700.0	780.0	2406.3	829.0	1577.3	1350.0	227.3
c21	1536.5	4100.0	380.0	6016.5	380.0	5636.5	7750.0	−2113.5
c22	2105.0	200.0	0.0	2305.0	996.5	1308.5	3850.0	−2541.5
c23	37.8	0.0	1800.0	1837.8	343.0	1494.8	900.0	594.8
c24	307.4	300.0	400.0	1007.4	476.5	530.9	760.0	−229.1
c25	397.7	895.0	200.0	1492.7	247.0	1245.7	1110.0	135.7
c26	862.9	0.0	0.0	862.9	333.0	529.9	570.0	−40.1
c27	1932.7	200.0	0.0	2132.7	916.7	1216.0	2150.0	−934.0
c28	213.0	400.0	0.0	613.0	454.0	159.0	325.0	−166.0
c29	271.3	900.0	0.0	1171.3	671.5	499.8	570.0	−70.2
c30	710.0	0.0	360.0	1070.0	536.5	533.5	690.0	−156.5
c31	345.2	90.0	320.0	755.2	189.0	566.2	720.0	−153.8
c32								
合計	44109.7	47399.0	4440.0	95948.7	29070.3	66878.4	82171.5	−15293.1
平均	1422.9	1529.0	143.2	3095.1	937.8	2157.4	2650.7	−493.3
割合(%)	46.0	49.4	4.6	100.0				

注１：c32は収支情報なし。

おり、農業からの収入が52%になっている。上堡集落では兼業からの収入が57%と50%を越え、農業からの収入が36%になっている。

以上においては生産物の自家消費分を除外していた。しかし、この南部山地における農業生産の性格が自給的色彩が非常に強いことから、自家消費・自給飼料分を加えた額が農業生産の実態をより反映しているといえよう。そこで、自家消費・自給飼料分を加えるとどうなるか。表示は略すが3つの調査地域の収入ならびに所得の関係は同じであるが、絶対額が若干増える。1世帯あたり自家消費・自給飼料分を見ると、同心県小山村で3400元、海原県白川集落で3186.3元、固原県上堡集落で2850.3元になる。自家消費・自給飼

表13　同心県小山村97年収入支出
－農業収入は自家消費分、自給飼料分を除く－

単位：元

世帯	農業収入	兼業収入	その他収入	収入計	農業・兼業経費	農家所得(A)	家計支出(B)	余剰(A－B)	預貯金
a1	10460.0	15200.0	0.0	25660.0	3694.8	21965.2	7421.0	14544.2	5000.0
a2	8440.0	4000.0	1000.0	13440.0	2440.0	11000.0	3471.0	7529.0	1000.0
a3	10760.0	42000.0	0.0	52760.0	2540.0	50220.0	11581.0	38639.0	20000.0
a4	16600.0	1000.0	0.0	17600.0	4255.0	13345.0	5300.0	8045.0	
a5	3780.0	20000.0	0.0	23780.0	7392.3	16387.7	13104.0	3283.7	
a6	8300.0	85000.0	0.0	93300.0	2010.0	91290.0	9938.0	81352.0	50000.0
a7	6200.0	6672.0	0.0	12872.0	3686.8	9185.2	16540.0	－7354.8	
a8	8260.0	132000.0	2000.0	142260.0	53843.0	88417.0	23750.0	64667.0	
a9	7394.0	0.0	1800.0	9194.0	1832.7	7361.3	5350.0	2011.3	18000.0
a10	7210.0	0.0	0.0	7210.0	2338.0	4872.0	5530.0	－658.0	
a11	9510.0	3000.0	0.0	12510.0	2238.0	10272.0	4350.0	5922.0	2000.0
a12	3750.0	2000.0	1000.0	6750.0	2510.0	4240.0	8550.0	－4310.0	
a13	1640.0	11000.0	0.0	12640.0	8309.2	4330.8	9340.0	－5009.2	
a14	6200.0	5600.0	0.0	11800.0	1690.0	10110.0	3680.0	6430.0	2000.0
a15	6600.0	0.0	4800.0	11400.0	3323.0	8077.0	3840.0	4237.0	2000.0
a16	6990.0	600.0	150.0	7740.0	3658.0	4082.0	4235.0	－153.0	
a17	6540.0	0.0	5000.0	11540.0	3185.0	8355.0	6545.0	1810.0	5000.0
a18	11730.0	4000.0	500.0	16230.0	6580.0	9650.0	11560.0	－1910.0	2000.0
a19	5100.0	5500.0	800.0	11400.0	2730.0	8670.0	5360.0	3310.0	2000.0
a20	6940.0	8000.0	0.0	14940.0	12010.0	2930.0	4268.0	－1338.0	5000.0
a21	9660.0	3000.0	0.0	12660.0	8230.0	4430.0	3898.0	532.0	2000.0
a22	10920.0	0.0	0.0	10920.0	7927.0	2993.0	2752.0	241.0	5000.0
a23	5790.0	2000.0	0.0	7790.0	11590.0	－3800.0	3655.0	－7455.0	3000.0
a24	5640.0	2000.0	0.0	7640.0	1790.0	5850.0	5450.0	400.0	1000.0
a25	10100.0	0.0	200.0	10300.0	4316.0	5984.0	3739.0	2245.0	
a26	9140.0	0.0	2000.0	11140.0	2740.0	8400.0	5090.0	3310.0	
a27	4420.0	65000.0	12000.0	81420.0	52800.0	28620.0	16530.0	12090.0	25030.0
a28	6936.0	36000.0	500.0	43436.0	14686.8	28749.2	16820.0	11929.2	
a29	6007.0	2950.0	0.0	8957.0	1364.8	7592.2	10500.0	－2907.8	
a30	7220.0	1000.0	300.0	8520.0	2110.0	6410.0	2351.0	4059.0	1000.0
合計	228237.0	457522.0	32050.0	717809.0	237820.4	479988.6	234498.0	245490.6	151030.0
平均	7607.9	15250.7	1068.3	23927.0	7927.3	15999.6	7816.6	8183.0	5034.3
割合(%)	31.8	63.7	4.5	100.0					

注1：農家によっては農畜水産物の自給、販売分を完全に把握出来ない場合がある。
注2：結婚持参金、結婚支度金、結婚費用の様な一時的な収入・支出を除く。
注3：農業収入とは農産物の販売額のことである。
注4：家計費には自家消費の食料分を含まず。

料を含む収入合計の中に占める自家消費・自給飼料分の割合はそれぞれ小山村12.4%、白川集落41.0%、上堡集落20.6%になる。以上から、小山村ならびに上堡集落では自家消費・自給飼料分は収入総額の10から20%であるが、農外所得があまりない白川集落では41%にもなる。

以上の検討結果から、この8年の間に小山村の一戸あたり収入計ならびに農家所得が他の2つの集落に比べて大きく増加していることがわかる。この所得増加に大きく寄与しているのが兼業所得である。自家消費を除いたものでの比較で農業収入も89年に比べて2.1倍とかなり増加しているが、兼業収

表14　海原県白河集落97年収入支出
－農業収入は自家消費分、自給飼料分を除く－

単位：元

世帯	農業収入	兼業収入	その他収入	計	農業・兼業経費	農家所得(A)	家計支出(B)	余剰(A－B)	預貯金
b2	2712.0	800.0	0.0	3512.0	1670.4	1841.6	4128.0	－2286.4	
b3	4736.0	1400.0	300.0	6436.0	2068.5	4367.5	2700.0	1667.5	
b4	3300.0	1000.0	0.0	4300.0	1467.0	2833.0	2130.0	703.0	
b5	2830.0	1200.0	300.0	4330.0	1750.0	2580.0	2200.0	380.0	
b6	1745.0	1300.0	0.0	3045.0	4793.6	－1748.6	2270.0	－4018.6	
b7	230.0	12000.0	0.0	12230.0	5000.0	7230.0	3180.0	4050.0	
b8	210.0	2800.0	1500.0	4510.0	2000.0	2510.0	11650.0	－9140.0	
b9	0.0	0.0	0.0	0.0	488.4	－488.4	1100.0	－1588.4	
b10	6900.0	0.0	0.0	6900.0	1602.8	5297.2	6390.0	－1092.8	
b11	2470.0	5800.0	0.0	8270.0	1552.0	6718.0	3380.0	3338.0	
b12	2322.0	3800.0	0.0	6122.0	3220.0	2902.0	3050.0	－148.0	
b13	2300.0	1200.0	200.0	3700.0	2152.0	1548.0	1718.0	－170.0	
b14	320.0	2300.0	0.0	2620.0	87.6	2532.4	2850.0	－317.6	
b15	2380.0	3400.0	270.0	6050.0	2280.0	3770.0	1800.0	1970.0	
b16	3047.0	400.0	0.0	3447.0	495.6	2951.4	1150.0	1801.4	
b17	990.0	680.0	120.0	1790.0	2036.8	－246.8	2860.0	－3106.8	
b18	3605.0	6482.0	2000.0	12087.0	31880.6	－19793.6	5642.0	－25435.6	
b19	2300.0	800.0	860.0	3960.0	1396.0	2564.0	4350.0	－1786.0	
b20	1255.0	600.0	0.0	1855.0	1819.4	35.6	1550.0	－1514.4	
b21	200.0	0.0	0.0	200.0	271.5	－71.5			
b22	4600.0	2600.0	0.0	7200.0	3943.8	3256.2	5510.0	－2253.8	
b23	4620.0	1000.0	0.0	5620.0	3820.4	1799.6	11580.0	－9780.4	
b24	2450.0	2600.0	1000.0	6050.0	1722.5	4327.5	3260.0	1067.5	
b25	2118.0	340.0	0.0	2458.0	770.6	1687.4	1080.0	607.4	
b26	1500.0	680.0	0.0	2180.0	882.0	1298.0	1708.0	－410.0	
b27	2080.0	2800.0	0.0	4880.0	2106.0	2774.0	3120.0	－346.0	
b28	2510.0	360.0	0.0	2870.0	1826.8	1043.2	1878.0	－834.8	
b29	2950.0	0.0	0.0	2950.0	660.0	2290.0	6150.0	－3860.0	
b30	2540.0	1600.0	120.0	4260.0	1077.5	3182.5	1858.0	1324.5	
合計	69220.0	57942.0	6670.0	133832.0	84841.8	48990.2	100242.0	－51180.3	
平均	2386.9	1998.0	230.0	4614.9	2925.6	1689.3	3456.6	－1764.0	
割合(%)	51.7	43.3	5.0	100.0					

注1：b1農家については97年のデータがないので除外した。
注2：b9農家の収入計がゼロであるが、夫が死亡した後に農業経営が悪化して借金が溜ってきた。資料の表示は略すがこの農家は97年に自家消費用の食料をわずかに（624元）生産しているのみである。農産物の販売額はゼロ、事業・その他の収入もゼロである。こういう状況であるが、この農家も農家収支の計算に入れてある。この農家を除外しても、3つの集落の所得の相対的な関係にはほとんど影響は無い。
注3：農家によっては農畜水産物の自給、販売分を完全に把握出来ない場合がある。
注4：結婚持参金、結婚支度金、結婚費用の様な一時的な収入・支出を除く。
注5：農業収入とは農産物の販売額のことである。
注6：家計費には自家消費の食料分を含まず。

入の増加は7.3倍と、農業収入の増加割合をはるかにしのいでいる。小山村においては農業収入は収入計の32%にすぎない。

次に上堡集落について。この集落においても、農業収入は収入計の36%である。ここでも農業収入が2.8倍増加し、兼業収入が4.2倍に増加している。

これら2つの地域と比べて収入の伸びが見られないのが白河集落である。ここでは収入計は89年よりも減少している。この集落の農業収入は8年前と比べて1.4に増加しているが、兼業収入が3分の2に減少している。また、農業収入について、他の2集落と比べて増加の割合が少ないし、絶対額でも

表15　固原県上堡集落97年収入支出
－農業収入は自家消費分、自給飼料分を除く－

単位：元

世帯	農業収入	兼業収入	その他収入	計	農業・兼業経費	農家所得(A)	家計支出(B)	余剰(A−B)	預貯金
c1	4090.0	2500.0	800.0	7390.0	2136.8	5253.2	6650.0	−1396.8	10.0
c2	1800.0	0.0	150.0	1950.0	303.3	1646.7	2538.0	−891.3	
c3	3088.0	80000.0	1000.0	84088.0	59240.0	24848.0	15600.0	9248.0	
c4	4380.0	0.0	0.0	4380.0	1018.4	3361.6	8698.0	−5336.4	
c5	3060.0	900.0	30.0	3990.0	1339.0	2651.0	6300.0	−3649.0	
c6	4700.0	3740.0	2000.0	10440.0	3215.8	7224.2	7940.0	−715.8	
c7	2572.0	700.0	700.0	3972.0	1184.5	2787.5	6656.0	−3868.5	
c8	5620.0	800.0	0.0	6420.0	1652.9	4767.1	4440.0	327.1	
c9	1500.0	45600.0	0.0	47100.0	1698.4	45401.6	22900.0	22501.6	
c10	8410.0	4000.0	500.0	12910.0	3190.8	9719.2	10480.0	−760.8	500.0
c11	780.0	2000.0	0.0	2780.0	855.6	1924.4	3468.7	−1544.3	
c12	2000.0	1200.0	0.0	3200.0	1480.2	1719.8	4990.0	−3270.2	
c13	1800.0	8000.0	1000.0	10800.0	1161.4	9638.6	7590.0	2048.6	
c14	14520.0	10000.0	1600.0	26120.0	3684.7	22435.3	12600.0	9835.3	
c15	5190.0	0.0	0.0	5190.0	2143.0	3047.0	7890.0	−4843.0	
c16	3860.0	5300.0	0.0	9160.0	3305.9	5854.1	2795.0	3059.1	
c17	5550.0	1000.0	0.0	6550.0	1365.6	5184.4	4360.0	824.4	2000.0
c18	6250.0	900.0	150.0	7300.0	2655.1	4644.9	4930.0	−285.1	
c19	0.0	300.0	100.0	400.0	343.0	57.0	1936.0	−1879.0	
c20	5820.0	3000.0	0.0	8820.0	1880.0	6940.0	7570.0	−630.0	
c21	8250.0	0.0	10000.0	18250.0	5800.0	12450.0	8850.0	3600.0	
c22	1400.0	4000.0	0.0	5400.0	1896.4	3503.6	5270.0	−1766.4	
c23	3400.0	9466.0	0.0	12866.0	1610.4	11255.6	11436.0	−180.4	
c24	4200.0	2500.0	3000.0	9700.0	2340.9	7359.1	6760.0	599.1	
c25	2900.0	0.0	800.0	3700.0	1621.6	2078.4	5770.0	−3691.6	
c26	2260.0	0.0	0.0	2260.0	924.0	1336.0	2150.0	−814.0	
c27	1300.0	4000.0	0.0	5300.0	1762.0	3538.0	7916.0	−4378.0	
c28	4635.0	1000.0	0.0	5635.0	2048.9	3586.1	5598.0	−2011.9	
c29	2070.0	2700.0	600.0	5370.0	1936.4	3433.6	4420.0	−986.4	
c30	5788.0	4000.0	30.0	9818.0	1918.8	7899.2	8070.0	−170.8	
c31	2700.0	3000.0	0.0	5700.0	1276.0	4424.0	4536.0	−112.0	
c32	3098.0	1000.0	0.0	4098.0	2123.0	1975.0	5040.0	−3065.0	
合計	126991.0	201606.0	22460.0	351057.0	119112.8	231944.2	226147.7	5796.5	2510.0
平均	3968.5	6300.2	701.9	10970.5	3722.3	7248.3	7067.1	181.1	78.4
割合(%)	36.2	57.4	6.4	100.0					

注1：農家によっては農畜水産物の自給、販売分を完全に把握出来ない場合がある。
注2：結婚持参金、結婚支度金、結婚費用の様な一時的な収入・支出を除く。
注3：農業収入とは農産物の販売額のことである。
注4：家計費には自家消費の食料分を含まず。

97年時点で3集落のなかで最低になっている。そしてこの集落の特徴は、収入計のなかで兼業収入が50％以下であることである。

以上のように、この8年間の収入の増大に大きな寄与をなしたものは、小山村ならびに上堡集落では兼業収入の大きな増加であった。特に小山村の兼業収入ならびに収入計は他の2つの地域を大きく上回っている。

表16　97年同心県小山村兼業業種
－戸主だけでなく、同居家族の兼業をも含む－

単位：人

世帯	公務員・教員	小売業・卸売業	建築業	運送業	精麦業・製粉業	その他	
a1	3		1		1		
a2		1（野菜販売）					
a3		2					
a4						1（電気溶接修理店）	
a5		3					
a6				2			
a7	1						
a8						1（運送仲介業）1）	
a9							
a10							
a11			1				
a12		1					
a13		1					
a14			1				
a15							
a16						1（髪菜採取・販売）2）	
a17							
a18		1					
a19		1					
a20		1				1（髪菜採取・販売）	
a21						1（髪菜採取・販売）	
a22							
a23				1			
a24						1（髪菜採取・販売）	
a25							
a26		1					
a27		1		1			
a28		1		2			
a29						2（時計工場工員）	
a30						1（髪菜採取・販売）	合計
合計	4	14	3	6	1	9	37

注1：「運送仲介業」とは荷物の送り主と輸送者とを仲介する業務である。
注2：髪菜（ファーサイ）とは黒い髪に似た植物で、祝い事に食される。

(v) 兼業種類

上述のように小山村、上堡集落の所得増加に大きく寄与してきた兼業収入であるが、それでは兼業としてはどのような職種があるのであろうか。表16、17、18は97年の兼業を表示している。

89年（表示省略）と97年とを比較すると、3つの地域とも小売・卸売業が増加している。その中では小山村が両年次とも卸・小売業が多い。次に白河

表17　97年海原県白河集落兼業業種
－戸主だけでなく、同居家族の兼業をも含む－

単位：人

世帯	公務員・教員	小売業・卸売業	建築業	運送業	精麦業・製粉業	その他	
b1							
b2		1					
b3		1					
b4						2（出稼ぎ：建設業・食堂）	
b5		1		1			
b6						2（出稼ぎ：建設業・羊皮加工）	
b7		1		1			
b8						1（出稼ぎ）	
b9							
b10							
b11	1						
b12		2（運送業も行う）					
b13				1			
b14						2（髪菜採取・販売）1）	
b15		2					
b16						1（臨時の仕事）	
b17				1			
b18	2			1			
b19		1					
b20						1（出稼ぎ：建設業）	
b21							
b22				1		1（養蜂業）	
b23			1				
b24						1（髪菜採取・販売）	
b25		1					
b26						2（出稼ぎ）	
b27		1					
b28						1（臨時の仕事）	
b29						2（養蜂業）	
b30				1			合計
合計	3	11	1	7		16	38

注1：髪菜（ファーサイ）とは黒い髪に似た植物で、祝い事に食される。

集落では他の地域と比べて運送業が多い。

表のその他の欄からは兼業の職種が多様であることがわかる。全般に製造業への従事数が少ない。

以上において小売業の多くは、道路沿いに面した自宅敷地内に小さな店舗を構えて各種商品を販売するものである。運送業とは、自転車を改造したようなものからかなり大型のトラックまでを利用して、物品や人間を運搬するものである。

表18　97年固原県上堡集落兼業業種
－戸主だけでなく、家族の兼業をも含む－

単位：人

世帯	公務員・教員	小売業・卸売業	建築業	運送業	精麦業・製粉業	その他	
c 1		1			1		
c 2							
c 3						2（溶接・飼料加工）	
c 4							
c 5						1（出稼ぎ）	
c 6						2（個人医者・車修理）	
c 7						1（食堂経営）	
c 8		1					
c 9		1（ガソリンスタンド）					
c 10		1					
c 11						1（出稼ぎ：建設業）	
c 12						1（塗装業）	
c 13						2（守衛・溶接業）	
c 14		2				1（工員）	
c 15							
c 16		1			1		
c 17		1					
c 18		2					
c 19						1（豚の屠殺）	
c 20					1		
c 21						2（装飾業銀川市）	
c 22						1（臨時の仕事）	
c 23	1						
c 24		1				1（銀川の電力局でバイト）	
c 25							
c 26							
c 27						1（出稼ぎ・内蒙古）	
c 28			1				
c 29			1			1（木工業）	
c 30						2（杭州の電機工場工員）	
c31						1（農業機械センター職員）	
c32						1（耕運作業）	合計
合計	1	11	2		3	22	38

(vi) 所得格差の具体的なあらわれ

以上のように、調査した3つの地域のうち、2つの地域においてこの8年間に所得をかなり増加させ、残る一つの地域では所得を減少させている。同じ8年間に3つの地域の間にかなりの所得の格差が生じている。寧夏回族自治区の南部山地内部における地域格差の発生と言っていいであろう。

ところでこの所得の格差は具体的にはどのようなことにあらわれているのであろうか。表19、20、21は耐久消費財の普及状況を示している。

これらの表から、他の2地域と比べて小山村では各種財がかなり普及していることがわかる。特に注目されるものはバイク、自動車、電話である。バイクは最近若者の間で人気があるようだが、自転車に比べるとだいぶ高価なようである。それを小山村では19台保有している。それに比べると他の2地域の保有状況は少ない。自動車はこの寧夏回族自治区自体で普及が始まった

表19　98年同心県小山村耐久消費財普及状況

世帯	冷蔵庫	洗濯機	テレビ	バイク	自動車	自転車	電話	ミシン	ﾗｼﾞｶｾ･VCD	トラック
a1	1(96)	2(96,97)	3(96,97)	2(96,97)		3(80,96,97)	1(97)			
a2		1(94)	1(92)	1(96)		2(90,96)	1(97)			
a3	1(97)	2(93,96)	2(94,96)	2(96,97)		2(88,96)	1(97)	1(94)	1(VCD97)	
a4			1(95)	1(95)		2(94,?)				
a5			1(78)	1(96)		2(95,97)	1(97)	1(91)		
a6		1	2(87,95)		1(96)18万元	2(88,90)	1(97)		1(95)	
a7			1(90)			2(76,?)				
a8		1(86)	1(88)	1(88)		1(87)	1(97)			1(96)
a9		1(97)	2(94,97)	1(97)		2(90,97)		1(78)		
a10			1(95)			2(86,95)			1(95)	
a11			1(94)			2(94,96)			1(90)	
a12			1(96)			2(84,?)				
a13						3(95,96)		1(78)		
a14			1(90)	1(96)		2(86,88)				
a15			1(91)			2(90,97)				
a16			1(90)			1(69)				
a17		1(94)	1(91)			2(88,96)	1(97)			
a18			1(90)	1(96)		2(94,95)				
a19		1(94)	1(94)	1(96)		2(88,94)				
a20			1(90)	1(96)		2(85,94)				
a21		1(95)	1(95)	1(97)		2(88,95)			1(95)	
a22			1(94)	1(97)		1(90)			1(88)	
a23		1(95)	1(92)	1(97)		1(90)			1(90)	
a24		1(96)	1(96)			2(90,96)	1(97)		1(96)	
a25		1(89)	1(89)	1(95)						
a26			1			2(94,95)				
a27	1(95)	1(95)	1(95)	2(95,97)	1(93ジープ)	2(90,95)	1(97)		1(VCD95)	
a28		1(89)	1(88)		1(97)	3(87)	1(97)			
a29						1(93)				1(97三輪車)
a30			1(95)			1(95)			1(95)	
合計	3	16	33	19	3	55	10	3	11	2

注1：（　）内は購入年である。
注2：ラジカセ・VCDのうちVCDとはCDを挿入してモニターを通じて視聴するデッキのことである。

ばかりのようであるが、小山村では乗用車を保有している世帯が3世帯ある。1台はダイハツ・シャレードであるという。もう1台はジープである。その他に1台ある。他の地域では乗用車はまだ普及していない。特に注目されるのは、電話の普及である。電話はテレビとともに各家庭に大きな影響を与えると思われるが、小山村においては10台、すなわち3世帯に1台の割合で普及している。これに対し、上堡集落では1台、白河集落では電話はない。また、冷蔵庫を保有している世帯は小山村で3世帯、上堡集落で1世帯、白河集落では0である。洗濯機についても、小山村でかなり普及しており、上堡集落でもほぼ3軒に1軒の割合で普及しているが、白河集落においては0である。自転車はかなり普及している。小山村ならびに上堡集落では1世帯に複数台普及している。白河集落においても1世帯に1台の割合で普及している。

小山村で各種財が普及するようになったのはそれほど昔からのことではな

表20　98年海原県白河集落耐久消費財普及状況

世帯	冷蔵庫	洗濯機	テレビ	バイク	自動車	自転車	電話	ミシン	ﾗｼﾞｶｾ･CDｶｾｯﾄ	トラック
b1										
b2			1(95)			1(90)			1(95)	
b3			1(96)			3(89,93,96)				
b4			1(95)			2(89,95)				
b5			1(96)			2(89,95)				
b6						1(86)				
b7			1(94)	1		1(85)			1(93)	
b8				1(97)						
b9										
b10			1(93)			2(88,93)				
b11						2(78,95)			1(89)	
b12			1(94)			1(85)				
b13			1(96)						1(93)	
b14			1(87)							
b15						1(89)				
b16						1(89)				
b17									1(93)	
b18			1(93)	1(97)		2(86,94)				1(97大型)
b19			1(97)							
b20			1(97)			1(97)				
b21			1(95)			1				
b22			1(89)			1(93)				
b23			1(97)							
b24			1(92)							
b25			1(95)			1(92)				
b26			1(95)			2(89,93)			1(93)	
b27			1(95)			2(89,95)			1(92)	
b28			1(95)						1(96)	
b29						2(86,90)				
b30			1(95)			1(92)				
合計			21	3		30			8	1

注：（　）内は購入年である。

表21　98年固原県上堡集落耐久消費財普及状況

世帯	冷蔵庫	洗濯機	テレビ	バイク	自動車	自転車	電話	ミシン	ﾗｼﾞｶｾ･CDｶｾｯﾄ	トラック
c1			2(90,96)			3(84,95)				
c2			1(94)							
c3		1(94)	2(92,94)	1(90)		3(88,90)				
c4			1(88)			2(83,88)				
c5			1(90)			1(90)				
c6		1(96)	2(89,96)			2(85,96)				
c7	1(97)		1(94)			1(87)				
c8			1(85)			2(85,92)				
c9		1(94)	1(87)	1(97)		1(98)				
c10			1(97)			3(76,94)				
c11			1(96)			1				
c12			1(95)			1(90)				
c13		1(84)	1(88)			4(85,92)				
c14		1(82)	2(81,94)	1(97)		2(65,88)				
c15		1(97)	1(96)	1(98)		3(85,92)				
c16			1(91)							
c17			1(91)			1(90)				
c18			1(87)			2(80,90)				
c19			1(91)			1(91)				
c20			1(92)			2(89)				
c21		1(97)	1(97)							
c22			1(96)			2(96)				
c23			1(92)	1(97)		2(95)				
c24		1(96)	1(96)			3(76,86,96)				
c25			1(98)			1(84)				
c26			1(94)							
c27			1(95)			2(83,95)				
c28			1(87)			2(77,?)				
c29			1(88)			1(82)				
c30			1(94)			1(85)			1(97)	
c31		1(94)	1(87)				1(97)			
c32			1(92)			2(81,94)				
合計	1	9	36	5		51	1		1	

注：（　）内は購入年である。

い。表からわかるように、電話の普及は97年になされている。その他の財についても、自動車や冷蔵庫、洗濯機、テレビ、バイク、自転車などのうちのかなりのものは最近数年の間に、あるいはここ10年以内に普及したことがわかる。

小山村についで各種財の普及が進んでいるのが上堡集落である。これに対して白河集落においては、所得の水準の低さが各種財の保有状況の少なさにあらわれている。まずこの集落には冷蔵庫、洗濯機、自動車（乗用車）、電話が全くない。テレビの保有台数はそれほど遅れていない。調査の際に見受けた住宅の屋根の上のテレビのアンテナの数から、テレビの普及率は一般に自治区内においてかなり高いものと思われる。

電話の普及については自治区政府もかなり熱心なようである。国道の沿線には電話の普及を呼びかける政府のスローガンがあちこちに見受けられた。

ただし、上でも検討したように、その普及状況は地域によってかなり差があるようである。

おわりに

以上見てきたように、寧夏回族自治区南部山地では従来農業は自給する食料を生産するものという性格が非常に強かった。かつては食料の自給さえ困難であった。その際には自治区政府が食料を補助していた。90年、98年の調査からは政府の援助を受ける世帯数からみて小山村、上堡集落については食料の自給は可能になったようである。これに対して白河集落については貧困世帯がいまだかなり存在していることから、いまだ自給を達成できていないようである。

同時に、3つの集落の調査から、これら3つの集落間に所得の格差が生じていることもわかった。この格差の発生要因は何であろうか。小山村と他の2集落を比較した場合、農業用水、すなわち潅漑施設の普及率が高いことが所得格差のある程度の要因であることは確認できる。すなわち、1世帯当たり農地保有面積がそれほど大きくないにも関わらず、小山村の自家消費をのぞく世帯当たり農業収入は他の2集落のそれのほぼ2倍、ないしそれ以上になっている。収入においてより決定的なのはしかし、農外収入への依存の程度、言い換えれば農外兼業から得られる収入水準であろう。

97年における兼業への依存度では白河集落は3つの地域の中では一番低い。それ以外の小山村と上堡集落においては兼業への依存度は60％前後である。小山村と上堡集落で違うのは兼業による収入水準の違いである。小山村の1世帯当たりの兼業収入は上堡集落の2.4倍に達する。この違いの要因の1つに小山村における子弟への教育熱心が挙げられるかもしれない。小山村では「これからは勉強が大事になる」と考えて、子弟の多くを高校や大学に通わせている。

このように、小山村の収入・所得が他の2地域と比較して飛び抜けて高いのは、調査結果からは農外所得の高さが大きな要因であることが判明する。

しかし筆者には、この集落に84年に作られた潅漑設備こそが所得を大きく増大させた基本的な要因であるように思われる。すなわち、潅漑設備の完成によって黄河からの農業用水の利用が可能となり、それが農業生産力を飛躍的に上昇させ、農業所得を増大させ、それに基づいて兼業のための資本の蓄積が可能になったのではないかと思うのである。具体的には兼業のためのトラックを買うなどの資金的な余裕は農業生産力の発展に由来するものではないかと思われる。また、生活に余裕が生じれば子弟に高等教育を受けさせることも可能になるのであろう。その教育への投資も中長期的には所得の向上に寄与している、あるいは寄与するであろう。

これに対して白河集落の場合は、調査した8年間に農業収入（農産物販売額）こそ増加しているものの、収入合計が減少している。つまり兼業からの収入が減っているのである。その結果8年前と比べて農家所得が半分以下に減少しているのである。他の2つの集落では農家所得は大幅に伸びているのに、である。同時にここにおいては食料・飼料の自給分が収入総額に占める割合が40％にも達するのである。ここでは農業生産は自給用の食料ならびに飼料生産という意味合いがいまもって強い。この白河集落では問題は深刻である。ここにおいては灌漑施設を早急に整備すること、人口増加を抑制すること、ならびに農林業以外の新たな産業、雇用の場を創出する必要がある。さもないと、増え続ける人口・減少し続ける1人あたり農地面積に対処出来ないであろう。

引用文献

(1) 胡薄『中国寧夏回族自治区における農林業開発に関する研究』京都大学博士論文、1993年。
(2) 長谷川功「中国・黄土高原の砂漠緑化」アジア人口・開発協会『人口と開発』No.60,1997.7.1。